

深
沢
Ⅱ
遺
跡

深沢Ⅱ遺跡

平成24年度国道291号社会資本総合整備(地域自主戦略)(交安)事業
に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書



平成24年度国道291号社会資本総合整備(地域自主戦略)(交安)事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

二〇一三

群馬県沼田土木事務所

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

2013

群馬県沼田土木事務所
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

深沢Ⅱ遺跡

平成24年度国道291号社会資本総合整備(地域自主戦略)(交安)事業
に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2013

群馬県沼田土木事務所
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団



調査区全景（西より）

調査区左上の道路が国道291号線。その向こうの谷に利根川が流れ、奥側手前に石尊山、向こうに三峰山が見える。

序

国道291号線は、山々の連なる上越国境の清水峠を越えて群馬、新潟両県に通じる道路です。しかしこの国道は、本県側では利根郡みなかみ町土合以北は車両の通行が規制されており、また上越新幹線上毛高原駅以北の区域では路線が著しく屈曲するなど、かねてから整備が計画されていました。この整備計画にしたがい、深沢～小川間の整備が進められ、一部では供用も開始されております。この事業の進捗に伴いまして、当事業団では群馬県沼田土木事務所の委託を受け、平成24年7月に深沢Ⅱ遺跡の発掘調査を実施しました。

発掘調査では、縄文時代後期の竪穴住居や土坑、平安時代の竪穴住居やピットなどが発見され、それぞれの時代を示す遺物が出土しました。ことに平安時代の竪穴住居からは須恵器の杯や羽釜などがまとまって出土しました。これらの品々は何れも地元の月夜野窯跡群で生産されたものと判断できるものであり、地元の窯業の歴史を知る上で貴重な成果となりました。本報告書に掲載した調査成果は、今後郷土史研究や考古学研究に資するものとなるでしょう。

最後になりますが、発掘調査にご協力いただいた群馬県沼田土木事務所、みなかみ町教育委員会、並びに地元関係者の皆様に心より御礼を申し上げ、序といたします。



平成25年1月

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
理 事 長 須 田 榮 一

例 言

- 1 本書は、平成24年度国道291号社会資本総合整備(地域自主戦略)(交安)に伴い発掘調査された、深沢Ⅱ(ふかさわに)遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
- 2 深沢Ⅱ遺跡は、群馬県利根郡みなかみ町月夜野1944番地に所在する。
- 3 事業主体 群馬県利根沼田県民局沼田土木事務所
- 4 調査主体 公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 5 調査期間 平成24年7月1日～平成24年7月31日
- 6 発掘調査体制は次のとおりである。
平成24年度
調査担当者 宮下寛(主任調査研究員)
遺跡掘削請負工事 株式会社歴史の杜
委託 地上測量 株式会社測研
- 7 履行期間 平成24年10月1日～平成25年1月31日
整理期間 平成24年10月1日～平成24年11月30日
- 8 整理体制は次のとおりである。
整理担当 新倉明彦(上席専門員)、保存処理 関邦一(補佐(総括))、遺物撮影 佐藤元彦(補佐(総括))、
遺物観察 石器 岩崎泰一(上席専門員)、縄文土器 谷藤保彦(上席専門員)、
須恵器 桜岡正信(上席専門員)、大西雅広(上席専門員)
- 9 本書作成の担当者は次のとおりである。
編集 新倉明彦、デジタル編集 齊田智彦
本文執筆 石守晃
遺物観察表執筆 縄文土器 谷藤保彦、石器 岩崎泰一、須恵器 桜岡正信
炭化材樹種同定 関 邦一
- 10 発掘調査及び本書作成にあたり、群馬県教育委員会、みなかみ町教育委員会、群馬県利根沼田県民局沼田土木事務所、及び下記の諸氏をはじめとする多くの方々にご協力、ご指導いただきました。記して感謝の意を表します。(敬称略)
高橋信博(区長)、小林繁雄(区長代理)、田村司、原浩、三宅敦気(みなかみ町教育委員会)
- 11 発掘調査諸資料及び出土資料は、群馬県埋蔵文化財調査センターに保管されている。

凡 例

- 1 深沢Ⅱ遺跡の座標値は、世界測地系国家座標(座標第Ⅸ系)を用いて測量した。なお、遺構図中に標記したグリッド名称は、国家座標値の下3桁のみを表記した。また、遺構の位置を示す際にも1×1mをひとつのグリッドとし、それぞれ南東角の座標をもってグリッド名称とした。
- 2 遺構図の中で使用した北方位は、すべて座標北を示している。なお、真北との偏差は21'59.93"である。
- 3 遺構の方位は、座標北を基準として主軸角度等の傾きを計測した。
- 4 遺構平面図の縮尺はそれぞれの図に記した他は、以下のとおりである。
竪穴住居 1:60、同炉・竈は 1:30、土坑、ピット、風倒木痕 1:60
遺構断面図の縮尺は、竪穴住居・炉・竈、土坑、ピットは平面図に同じ。
- 5 遺物図の縮尺は以下のとおりである。
土器 1:3、石器 1:2
- 6 遺物番号は出土遺構ごとの連番で、番号は本文・挿図・表・写真図版とも一致する。
- 7 図中で使用したスクリーントーンは、以下のことを表す。
 焼土
 粘土
- 8 本書では必要に応じて、榛名-二ツ岳渋川軽石(Hr-FP)などの主要テフラを略号のみで表記した。
- 9 住居の面積は、デジタルプランイメーターで計測した。
- 10 土層や土器の色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修、財団法人日本色彩研究所色票監修『新版標準土色帖』を使用した。
- 11 本書で使用した各地図は、以下のとおりである。
第1図は国土地理院5万分の1地勢図「四万・追貝」、第2図は国土地理院20万分の1地勢図「日光・宇都宮・高田・長野」、第3図は国土地理院2万5千分の1地勢図「猿ヶ京・後閑」、第4図は国土地理院2万5千分の1地勢図「猿ヶ京・後閑・上野中山・沼田」、第5図は国土地理院2万5千分の1地勢図「上野中山・沼田」、第6図はみなかみ町都市計画図IX-HC30-2、沼田土木500分の1丈量図「一般国道291号利根郡みなかみ町月夜野地内」を使用した。

目次

口絵

序

例言

凡例

目次 挿図目次 表目次 写真目次

報告書抄録

第1章 調査経過

第1節 調査に至る経過	1
1 国道291号線	1
2 埋蔵文化財の調査に至る経過	3
3 埋蔵文化財調査の経過	3

第2章 遺跡の立地と歴史的環境

第1節 遺跡の位置と地形	4
第2節 周辺の遺跡	6

第3章 調査の方法と基本土層

第1節 調査の方法	10
1 調査区及びグリッドの設定	11
2 発掘調査方法	11
第2節 基本土層	11

第4章 発見された遺構と遺物

第1節 遺跡の概要	12
第2節 遺構と遺物	13
1 縄文時代の遺構と遺物	13
2 平安時代の遺構と遺物	18
3 遺構外の遺物	26

小 結 26

出土遺物観察表 27

写真図版

挿 図 目 次

第1図	遺跡位置図	1
第2図	清水新道・清水越国道・月夜野町往還位置図	2
第3図	遺跡周辺の地質図	4
第4図	周辺遺跡の分布図	5
第5図	分布部分図(塚原古墳群)	6
第6図	国道291号線及び道路改修路線図	10
第7図	基本土層	11
第8図	遺構位置図	12
第9図	旧石器の試掘図	13
第10図	1号住居跡(1)	14
第11図	1号住居跡(2)	15
第12図	1号住居跡出土遺物	16
第13図	土坑と出土遺物	17
第14図	1号風倒木痕	17
第15図	2号風倒木痕	18
第16図	2号住居跡	19
第17図	2号住居跡出土遺物(1)	20
第18図	2号住居跡出土遺物(2)	21
第19図	2号住居跡出土遺物(3)	22
第20図	3号住居跡	23
第21図	3号住居跡カマドと出土遺物及び炭化材出土位置	24
第22図	ピットと出土遺物	25
第23図	遺構外の出土遺物	26

表 目 次

表1	周辺遺跡一覧(1)	7
表2	周辺遺跡一覧(2)	8
表3	3号住居跡出土炭化材一覧微細物同定結果	24

写真目次

口絵 調査区全景(西から)

PL.1	1. 遺跡遠景(北西から)	2. 調査区全景(北西から)	
PL.2	1. 調査区調査風景	2. 調査区全景	3. 東壁基本土層土層断面
	4. 1号住居全景	5. 1号住居炉全景	6. 1号住居炉掘り方土層断面
	7. 1号住居P2・P3土層断面	8. 1号住居P2・P3全景	9. 1号住居P13土層断面
PL.3	1. 1号住居出土遺物	2. 1号住居調査風景	3. 2号住居遺物出土状態
	4. 2号住居全景	5. 2号住居南東部遺物出土状態	6. 2号住居掘り方土層断面
	7. 2号住居土層断面	8. 3号住居掘り方全景	9. 3号住居全景
PL.4	1. 3号住居遺物出土状態	2. 3号住居南西部遺物出土状態	3. 3号住居炭化物出土状態
	4. 3号住居竈遺物出土状態	5. 3号住居竈全景	6. 3号住居竈掘り方全景
	7. 3号住居P4全景	8. 1号土坑全景	9. 2号土坑全景
	10. 3号土坑全景	11. 1号ピット全景	12. 2号ピット全景
	13. 3号ピット全景	14. 4号ピット全景	15. 5号ピット全景
PL.5	1. 6号ピット全景	2. 7号ピット全景	3. 8号ピット全景
	4. 9号ピット全景	5. 10号ピット全景	6. 1号風倒木全景
	7. 1号トレンチ土層断面	8. 1号トレンチ全景	9. 2号トレンチ土層断面
	10. 2号トレンチ全景	11. 東壁基本土層土層断面	12. 調査区全景
	13. 表土掘削	14. 調査区埋戻し後	15. 2号住居調査風景
PL.6	1号住居出土遺物	1号土坑出土遺物	3号土坑出土遺物
	2号住居出土遺物		
PL.7	2号住居出土遺物		
PL.8	3号住居出土遺物	1号ピット出土遺物	遺構外の出土遺物

報告書抄録

ふりがな	ふかさわにいせき
書名	深沢Ⅱ遺跡
副書名	平成24年度国道291号社会資本総合整備(地域自主戦略)(交安)に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書
シリーズ番号	第553集
編著者名	新倉明彦 石守 晃 谷藤保彦 岩崎泰一 桜岡正信
編集機関	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行機関	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行年月日	20130123
作成法人ID	21005
郵便番号	377-8555
電話番号	0279-52-2511
住所	群馬県渋川市北橘町下箱田784番地2
遺跡名ふりがな	ふかさわにいせき
遺跡名	深沢Ⅱ遺跡
所在地ふりがな	ぐんまけんとねぐんみなかみまちつきよの
遺跡所在地	群馬県利根郡みなかみ町月夜野
市町村コード	10449
遺跡番号	T0424
北緯(世界測地系)	364149
東経(世界測地系)	1385358
調査期間	20120701-20120731
調査面積	500㎡
調査原因	道路建設
種別	集落
主な時代	縄文/平安
遺跡概要	集落-縄文-竪穴住居1+土坑3+風倒木痕-縄文土器+石器/集落-平安-竪穴住居2+ピット10/その他-縄文遺構外-縄文土器+平安-須恵器
特記事項	縄文時代の竪穴住居は後期のもので柄鏡形住居の可能性を持つ。平安時代の竪穴住居は10世紀前半期の所産で月夜野窯跡群の製品を伴う。
要約	群馬県北部、利根川右岸の断丘上の小溪に挟まれた平坦部に営まれ、縄文時代後期と平安時代の集落址などが検出されている。

第1章 調査経過

第1節 調査に至る経過

1 国道291号線

国道291号線は、群馬県と新潟県を結ぶ道路のうち清水峠越えと呼ばれるルートで、群馬県前橋市本町から新潟県柏崎市を結ぶ一般国道である。

そもそも清水峠越えは上越国境を通る最短ルートで、中世には直越すくごえなどとも呼ばれ上杉謙信の越山にも用いられた。近世には三国街道の整備に伴い江戸幕府から通行を停止されたが、近世後期より再度の開削の動きがあり、近代に入った明治6年(1873)、熊谷県令河瀬秀治の指示と沿線地域住民の寄付によって北越道などとも称する清水新道の開鑿に着手し、同7年竣工した。このときの道路は幅6尺ほどの山岳道路で、例えばみなかみ町高日向から利根川右岸へ渡るなど後述する清水越国道の路線と

は必ずしも重ならないものであった。尚、この道は明治10年、一等県道に認定されている。

さて清水新道の開削に続いて清水越国道が建設される。清水越国道の建設は明治政府による西南戦争後の主要インフラ整備の一環として35万円の巨費が投じられた。工事監督を宮之原誠造が務め、馬車の通行可能な勾配平均1/30、幅員平均3間(約5.4m)の道路として設計され、清水新道からの路線の変更や多くの新規開鑿箇所もあった。同国道は国道に昇格した明治11年(1878)測量に着手。内務卿松方正義の発議で明治14年着工、同18年



第1図 遺跡位置図 (国土地理院「四万・追貝」1:50,000使用)



第2図 清水新道・清水越国道・月夜野町往還位置図
(国土地理院「日光・宇都宮・高田・長野」1：200,000使用)

(1885)竣工。同年9月8日に白川宮能久親王殿下、内務卿山形有朋らが列席して盛大な開通式が挙行され、警備の警官や馬車、人力車などが十数町も連なり、近在のみならず多く人が集まったと云う。

しかし開通二か月後には早くも道路の崩壊が発生し、復旧の負担も少なくなく、明治18年に新潟県議会、同24年には水上・古馬牧村(現みなかみ町)から国費での改修請願も挙げられている。しかし鉄路である上越線の建設計画などもあって大正10年(1921)には県道に格下げとなり、国境付近は荒れるに任せた。

その後清水越えの道路復旧の願いは叶えられることはなかったが、昭和45年(1970)清水越県道は一般国道291号線として指定されることになった。その経路は旧清水越国道路線のうちみなかみ町大穴～月夜野間は利根川右岸から左岸に移され、本遺跡も同国道経路上に含まれることになった。しかし利根郡みなかみ町土合～新潟県南魚沼市清水の区間は車両通行不能で、特に新潟県側では徒歩での通行もできない箇所もあるという。

さて、そもそも国道291号線のうち本遺跡を通過する道路は清水新道や清水越国道に属した道路ではなく、明治前期には月夜野町往還と称される里道一等に属する道路であった。この道は月夜野石倉線とも称され、三国街道(現一般国道17号線)をみなかみ町の町組地内から分岐北上して、同町川上・湯原地区の境で上述する清水新道に合する幅8～9尺(約242～273cm)の道路で、明治34年(1901)郡補道となっている。また月夜野石倉線は明治39年の凶作時に救済工事として大改修が行われ、明治41年、大正15年の桃野村道路費補助道路として第1号路とされ、前者は工費の1/4、後者は3百円以上の補助が交付されることになっていた。その後、昭和13年には県道に昇格され、その後バスの運行が可能な状態にまで拡張工事が進められたのである。

〔参考文献〕

- 町誌みなかみ編纂委員会(1964)『町誌みなかみ』312-328、377
- 桃野村誌編纂委員会(1961)『桃野村誌』575
- 群馬県利根教育會(1930)『利根郡誌』162-166
- 群馬県史編さん委員会(1989)『群馬県史 通史編8 近現代2』384-385
- 古馬牧村誌編纂委員会(1972)『古馬牧村誌』772-779
- 熊谷縣知事官房(1975)『上野郡村誌 第拾冊・第拾壹冊』『上野郡13 利根郡(2)』(1985)群馬県文化振興事業団131-151、173-182
- 塩沢町(2007)『塩沢町史 通史編 下巻』333-335
- 新潟県(1982)『新潟県史 資料編15 近世三』441-443
- 道路レポート291 <<http://yamaiga.com/road/shimizu/main9.html>> 2012年11月27日

2 埋蔵文化財の調査に至る経過

さて群馬県では平成20年3月24日策定の「はばたけ群馬・県土整備プラン」に基づき、利根沼田地区で県民から意見聴取を行い、その中から取り上げられた施策として生活幹線道路の安全確保があり、その対象の一つとして国道291号線(深沢～小川間)の整備が実施されることとなった。

国道291号線の路線は、本遺跡付近では上越新幹線の跨道を渡って北西進し、蛇行しながら北北東に折れているため見通しが良くなかったのであるが、この蛇行部分を解消して大きく弧を描くように路線を変更するように事業計画が立てられたのである。尚、本遺跡地内においては国道291号線と西側傾斜地上方へのアクセス道路が建設予定になっている。

群馬県県土整備部監理課(沼田土木事務所)はこの事業を進めるに当たり、平成23年5月11日、群馬県教育委員会文化財保護課(以下「保護課」)に事業地における埋蔵文化財の状況について照会を行った。これに対し保護課は、平成22年6月8日、事業地は周知の埋蔵文化財包蔵地内であるが、近隣に周知の埋蔵文化財包蔵地があることから試掘・確認調査が必要であると回答し、保護課は石田真指導主事を調査担当として平成23年6月7日に試掘調査を実施した。尚、試掘対象地域(事業予定地)は約1250㎡であった。

試掘対象区域は南側が水田、北側が桑畑となっていて、水田側が一段低くなっており、桑畑に3本、水田に1本の試掘トレンチを掘削した。試掘調査の結果、北側の1～3号トレンチでローム層上に暗褐色土や黒色土の堆積が確認でき、1・2号トレンチで平安時代の竪穴住居、1～3号トレンチで土坑が確認され、一方南側の4号トレンチで遺構、遺物は確認できなかった。このため北半の桑畑部分に本調査が必要と判断し、南半の水田部分の本調査は不要と判断する試掘調査所見を得ている。またその結果を沼田土木及びみなかみ町教育委員会に送っているが、その後、保護課は当該事業地を平成23年7月19日、新規に周知の埋蔵文化財包蔵地(深沢Ⅱ遺跡)として決定した。

保護課は平成24年4月20日に沼田土木事務所から文化財保護法94条による通知等の提出を受けて調整を行い、

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団(以下「事業団」とする)に調査させることとして沼田土木に通知すると共に、平成24年5月10日に事業団に通知、同月14日事業団はこれを受諾する旨回答した。これを受けて同日沼田土木は同21日に事業団に対し発掘調査の委託を行い、ここに当事業団による発掘調査が実施されることになったのである。

3 埋蔵文化財調査の経過

平成24年7月

- 2日 事務所の用地整備及び設置。
- 3日 調査範囲囲繞。表土掘削北側から開始。
- 4日 表土掘削継続。ローム漸移層にて遺構確認。
- 5日 2号住居、ピット、土坑の掘削から遺構調査開始。
- 6日 表土掘削終了。1号土坑、1～8号ピットセクション写真撮影から遺構の記録作成開始。調査区南東隅より縄文竪穴住居確認、水田の削平により覆土はほぼ消失。
- 7・8日 降雨の為現場作業中止。
- 9日 2号住居に遺物が集中的に出土。1号土坑、1～8号ピットセクションより測図開始。
- 10日 調査継続。溝を設置し降雨対策を施す。
- 11日 調査継続。基本土層3箇所設定、写真撮影、測図。
- 12日 降雨の為現場作業中止。
- 13日 調査継続。旧石器トレンチ(4×2m)2箇所設定
- 14日 1・2号住居調査継続。1号風倒木調査。
- 17日 旧石器試掘調査開始。1号住居調査終了。
- 18日 2号住居内より3号土坑検出。
- 19日 2号住居調査終了。
- 20日 2号住居調査、旧石器試掘調査継続。
- 23日 全景写真撮影。遺構写真撮影、測量等終了。旧石器試掘調査完了。
- 24日 調査区埋戻し開始。
- 25日 埋戻し作業完了。沼田土木事務所真庭氏ほか1名埋戻し状況確認。引き渡し完了。
- 26日 事務所撤去準備。
- 27日 出土遺物、測量図面、物品等搬出。
- 30日 事務所解体。事務所用地整備。発掘調査完了。

第2章 遺跡の立地と歴史的環境

第1節 遺跡の位置と地形

深沢Ⅱ遺跡は北毛^{ほくもう}と呼ばれる群馬県北部、利根郡みなかみ町月夜野位置内に位置している。遺跡地は南流する利根川右岸に位置し、南1.6kmには利根川の支流赤谷川が東流している。本遺跡は利根川によって形成された河岸段丘上の断崖に面したところに在って、西に味城山を頂部とする山地が横たわり、遺跡地はこの山地に発した

沢によって南北を開析された谷地形上に立地している。

本遺跡は群馬県庁(前橋市大手町)の北北西33.4km、みなかみ町役場の北西2.9km、利根郡の中心である沼田市役所の北西7.9kmに位置し、北北西15kmには上越国境(群馬・新潟県境)が在る。

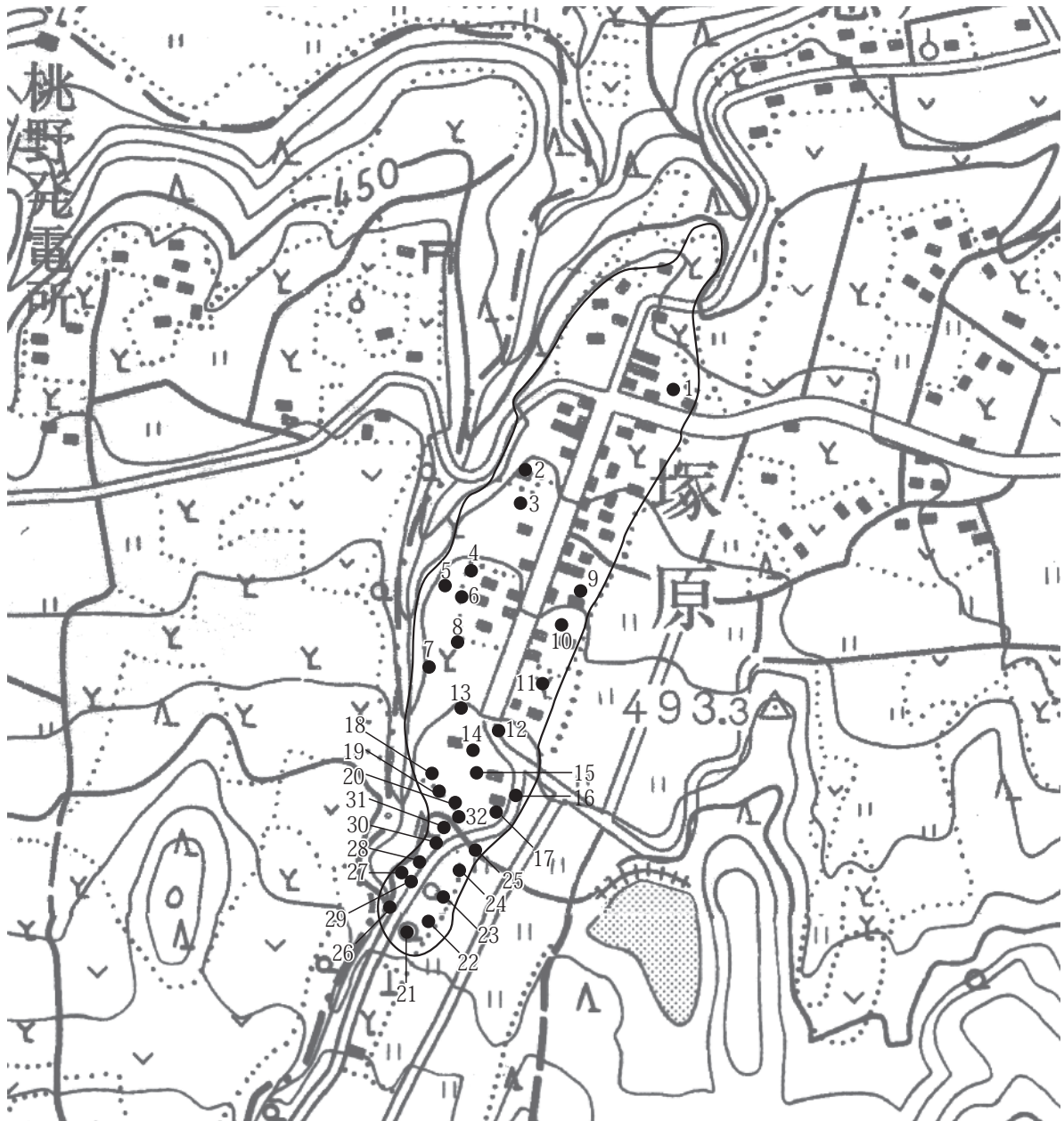
本遺跡付近は農村地帯であり、平坦部には耕地が営まれ、山地は山林である。一方、本遺跡の東には上越新幹線が南北に走り、南南東480mには月夜野高原駅が在る。調査区に東隣して国道291号線が南北に走行している。



第3図 遺跡周辺の地質図 (国土地理院「猿ヶ京・後閑」1:25,000使用)



第4図 周辺遺跡の分布図(国土地理院「猿ヶ京・後閑・上野中山・沼田」1:25,000使用)



第5図 分布部分図(塚原古墳群152-1～32) (国土地理院「猿ヶ京・上野山中」1：25,000使用)

さて本遺跡の北北西上越国境には谷川岳があり、第3図に示したように遺跡地周辺は古生代石炭紀から中生代白亜紀に形成された基盤層を、新生代第三期中新世までのグリーンタフ層や新生代第四期の火山噴出物が不整合に覆っている。この火山噴出物のうち、本遺跡では第4期更新世の浅間山噴出のと完新世のA.D. 6世紀前半の榛名山噴出のHr-FP軽石が確認されている。

〔参考文献〕
新井房夫監修・群馬県地質図作成委員会(1999)『群馬県10万分の1地質図』内外地図株式会社

第2節 周辺の遺跡

第4図に示した範囲で遺跡分布を見ると、旧石器時代の遺跡は何れも後期のもので、小竹A遺跡(50)と大竹遺跡(52)で発掘調査が行われ、後者ではナイフ形石器と切出形石器等の出土が見られた。

縄文時代のうち早期にあつては前中原遺跡(31)では中葉の住居址が調査された他、湊尻遺跡(5)や前田原遺跡(37)でも出土遺物が得られている。前期のものでは前中原遺跡(31)、宮地遺跡(33)、大竹遺跡(52)、三後沢遺跡

表1 周辺遺跡一覧(1)

No.	遺跡名	遺跡番号	ブレ	縄文	弥生	古墳	奈良	平安	中世	近世	備考
1	深沢Ⅱ遺跡	T 0424		○				○			本遺跡
2	遺跡名なし	T 0395		○							
3	遺跡名なし	T 0396		○							
4	遺跡名なし	T 0397		○					○	○	
5	測尻遺跡	T 0398		○					○	○	
6	遺跡名なし	T 0409		○							
7	遺跡名なし	T 0408		○							
8	遺跡名なし	T 0407		○		○	○	○			
9	遺跡名なし	T 0372		○		○	○	○			
10	遺跡名なし	T 0402							○	○	
11	遺跡名なし	T 0399		○					○	○	
12	小川神社遺跡	T 0400		○		○	○	○			
13	森原遺跡	T 0401		○					○	○	
14	遺跡名なし	T 0403		○		○	○	○	○	○	
15	隧道取水口	T 0411									近代
16	遺跡名なし	T 0160							○	○	
17	遺跡名なし	T 0152		○					○	○	
18	遺跡名なし	T 0157				○	○	○	○	○	
19	遺跡名なし	T 0155		○		○	○	○	○	○	
20	遺跡名なし	T 0154		○		○	○	○			
21	遺跡名なし	T 0151		○		○	○	○	○	○	
22	遺跡名なし	T 0156		○		○	○	○	○	○	
23	遺跡名なし	T 0150		○		○	○	○			
24	遺跡名なし	T 0153		○					○	○	
25	遺跡名なし	T 0371		○		○	○	○			
26	遺跡名なし	T 0374									時代不明
27	遺跡名なし	T 0338		○		○	○	○	○	○	
28	真沢遺跡	T 0339		○					○	○	
29	遺跡名なし	T 0404		○							
30	水沼遺跡	T 0405		○					○	○	
31	前中原遺跡	T 0406		○		○	○	○	○	○	
32	遺跡名なし	T 0149		○					○	○	
33	宮地遺跡	T 0148		○		○	○	○	○	○	
34	遺跡名なし	T 0146		○		○	○	○	○	○	
35	遺跡名なし	T 0147		○		○	○	○			
36	真沢A支群	T 0379				○	○	○			
37	前田原遺跡	T 0340		○		○	○	○			
38	遺跡名なし	T 0370		○		○	○	○			
39	須磨野A支群	T 0385		○		○	○	○			
40	遺跡名なし	T 0369				○	○	○			
41	須磨野B支群	T 0386				○	○	○			
42	深沢B支群	T 0381				○	○	○			
43	深沢B支群	T 0381				○	○	○			
44	深沢C支群	T 0380				○	○	○			
45	上組遺跡群	T 0342				○	○	○			
46	上組遺跡群	T 0341		○							
47	深沢遺跡	T 0343		○		○	○	○	○	○	深沢B遺跡
48	上組遺跡群	T 0344		○		○	○	○			
49	小竹B遺跡	T 0144		○		○	○	○	○	○	

No.	遺跡名	遺跡番号	ブレ	縄文	弥生	古墳	奈良	平安	中世	近世	備考
50	小竹A遺跡	T 0145	○	○		○	○	○	○	○	
51	上組遺跡群	T 0345		○		○	○	○	○	○	
52	大竹遺跡	T 0143	○	○	○	○	○	○	○	○	
53	遺跡名なし	T 0141							○	○	
54	遺跡名なし	T 0140		○					○	○	
55	遺跡名なし	T 0139		○		○	○	○	○	○	
56	遺跡名なし	T 0138		○					○	○	
57	見城の柵址	T 0368									時代不明
58	沢入A支群	T 0382				○	○	○			
59	遺跡名なし	T 0351							○	○	
60	遺跡名なし	T 0346		○		○	○	○			
61	矢瀬遺跡	T 0375		○							
62	遺跡名なし	T 0347				○	○	○	○	○	
63	遺跡名なし	T 0348		○	○	○	○	○	○	○	
64	梨の木平遺跡	T 0349		○		○	○	○	○	○	
65	遺跡名なし	T 0159								○	
66	遺跡名なし	T 0137		○		○	○	○	○	○	
67	高平遺跡	T 0142		○		○	○	○	○	○	
68	藪田B支群	T 0387				○	○	○			
69	藪田遺跡、藪田東遺跡	T 0352			○	○	○	○	○	○	
70	藪田B遺跡	T 0350		○		○	○	○	○	○	
71	遺跡名なし	T 0353		○		○	○	○	○	○	
72	洞I遺跡	T 0355				○	○	○	○	○	
73	小川城址	T 0356		○		○	○	○	○	○	
74	洞II遺跡	T 0354		○		○	○	○	○	○	
75	洞B支群	T 0384				○	○	○			
76	洞A支群	T 0383				○	○	○			
77	遺跡名なし	T 0361		○		○	○	○	○	○	
78	前原遺跡	T 0103		○		○	○	○			
79	遺跡名なし	T 0104		○		○	○	○	○	○	
80	遺跡名なし	T 0088				○	○	○			
81	遺跡名なし	T 0120				○					
82	遺跡名なし	T 0363		○					○	○	
83	都遺跡	T 0362	○	○		○	○	○	○	○	都B遺跡
84	大原火薬庫跡	T 0278									近代
85	遺跡名なし	T 0364		○					○	○	
86	遺跡名なし	T 0365		○		○	○	○	○	○	
87	遺跡名なし	T 0377									時代不明
88	遺跡名なし	T 0366		○		○	○	○	○	○	
89	遺跡名なし	T 0367				○	○	○	○	○	
90	後閑館址	T 0087				○	○	○	○	○	
91	内小山砦址	T 0089		○		○	○	○	○	○	
92	遺跡名なし	T 0121				○					
93	遺跡名なし	T 0086		○		○	○	○	○	○	
94	遺跡名なし	T 0119				○					
95	遺跡名なし	T 0118				○					
96	師田浅貝原遺跡	T 0014		○							

第2章 遺跡の立地と歴史的環境

表2 周辺遺跡一覧(2)

No.	遺跡名	遺跡番号	ブレ	縄文	弥生	古墳	奈良	平安	中世	近世	備考
97	上津遺跡群	T 0250		○		○	○	○			
98	上津遺跡群	T 0249				○	○	○	○	○	
99	上津遺跡群	T 0252		○		○	○	○	○	○	
100	塚原古墳群	T 0324				○					
101	塚原古墳群	T 0325				○					
102	上津遺跡群	T 0251				○	○	○	○	○	
103	上津遺跡群	T 0248				○	○	○	○	○	
104	上津遺跡群	T 0245		○		○	○	○	○	○	
105	上津遺跡群	T 0244		○		○	○	○	○	○	
106	上津遺跡群	T 0239			○	○	○	○			
107	上津遺跡群	T 0240				○	○	○			
108	村主遺跡 (上津遺跡群)	T 0238		○	○	○	○	○	○	○	
109	上津遺跡群	T 0242			○	○	○	○			
110	上津遺跡群	T 0241				○	○	○	○	○	
111	若宮塚	T 0336								○	
112	若宮塚	T 0337								○	
113	遺跡名なし	T 0237		○		○	○	○	○	○	
114	大原遺跡、大原Ⅱ遺跡	T 0236		○	○	○	○	○	○	○	
115	遺跡名なし	T 0187		○	○	○	○	○	○	○	
116	上津遺跡群	T 0246				○	○	○	○	○	
117	上津遺跡群	T 0255		○		○	○	○	○	○	
118	上津遺跡群	T 0253				○	○	○	○	○	
119	上津遺跡群	T 0254			○	○	○	○	○	○	
120	上津遺跡群	T 0247				○	○	○	○	○	
121	上津遺跡群	T 0277				○	○	○	○	○	
122	上津遺跡群	T 0243		○	○	○	○	○	○	○	
123	上津遺跡群	T 0264				○	○	○			
124	水口山古墳 (塚原古墳群)	T 0323				○					
125	上津遺跡群	T 0259				○	○	○	○	○	
126	上津遺跡群	T 0261				○	○	○	○	○	
127	上津遺跡群	T 0262				○	○	○	○	○	
128	上津遺跡群	T 0263		○		○	○	○	○	○	
129	遺跡名なし	T 0265		○		○	○	○	○	○	
130	遺跡名なし	T 0331				○					
131	遺跡名なし	T 0266				○	○	○			
132	遺跡名なし	T 0330				○					
133	遺跡名なし	T 0269		○		○	○	○	○	○	
134	十二原Ⅲ遺跡	T 0270				○	○	○	○	○	
135	十二原遺跡、十二原Ⅱ遺跡	T 0271		○	○	○	○	○	○	○	
136	十二原遺跡	T 0272		○	○	○	○	○	○	○	
137	遺跡名なし	T 0190		○	○	○	○	○	○	○	
138	遺跡名なし	T 0191		○		○	○				
139	三後沢遺跡	T 0189		○	○	○	○	○	○	○	調査地(三後沢C遺跡・" E遺跡)

No.	遺跡名	遺跡番号	ブレ	縄文	弥生	古墳	奈良	平安	中世	近世	備考
140	下津十二原遺跡	T 0188		○							近代
141	遺跡名なし	T 0193		○	○				○	○	
142	諏訪遺跡	T 0192		○	○	○	○	○	○	○	
143	名胡桃城跡	T 0196							○		
144	名胡桃城跡、城平遺跡	T 0196		○	○	○	○	○	○	○	
145	上津遺跡群	T 0260		○		○	○	○			
146	遺跡名なし	T 0327				○					
147	遺跡名なし	T 0328				○					
148	遺跡名なし	T 0267		○		○	○	○			
149	遺跡名なし	T 0273		○		○	○	○	○	○	
150	遺跡名なし	T 0332				○					
151	遺跡名なし	T 0275		○		○	○	○	○	○	
152-1	塚原古墳群	T 0322				○					
152-2	塚原古墳群	T 0321				○					
152-3	塚原古墳群	T 0320				○					
152-4	塚原古墳群	T 0317				○					
152-5	道西塚古墳	T 0316				○					
152-6	塚原古墳群	T 0315				○					
152-7	塚原古墳群	T 0312				○	○	○	○	○	
152-8	塚原古墳群	T 0314				○					
152-9	馬場塚古墳 (塚原古墳群)	T 0319				○					桃野村 2号墳
152-10	深沢塚古墳 (塚原古墳群)	T 0318				○					
152-11	塚原古墳群	T 0313				○					
152-12	塚原古墳群	T 0310				○					
152-13	塚原古墳群	T 0311				○					
152-14	塚原古墳群	T 0307				○					
152-15	塚原古墳群	T 0306				○					
152-16	楓塚古墳 (塚原古墳群)	T 0309				○					
152-17	塚原古墳群	T 0308				○					
152-18	塚原古墳群	T 0305				○					
152-19	塚原古墳群	T 0304				○					
152-20	塚原古墳群	T 0303				○					
152-21	塚原古墳群	T 0291				○					桃野村 21号墳
152-22	塚原古墳群	T 0292				○					桃野村 20号墳
152-23	桜塚古墳 (塚原古墳群)	T 0293				○					桃野村 22号墳
152-24	塚原古墳群	T 0294				○					桃野村 19号墳
152-25	塚原古墳群	T 0302				○					
152-26	塚原古墳群	T 0295				○					
152-27	塚原古墳群	T 0296				○					
152-28	塚原古墳群	T 0298				○					
152-29	塚原古墳群	T 0297				○					
152-30	塚原古墳群	T 0300				○					
152-31	塚原古墳群	T 0299				○					
152-32	塚原古墳群	T 0301				○					
153	塚原宿遺跡	T 0256				○				○	

(139)、三後沢C遺跡(139)、下津十二原遺跡(140)、諏訪遺跡(142)で竪穴住居が調査されているが、出土遺物には宮地遺跡(33)で円筒下層式、大竹遺跡(52)で黒浜式、三後沢遺跡(139)で関山式の土器が出土している。中期では深沢遺跡(47)、大竹遺跡(52)、三後沢遺跡(139)で竪穴住居を調査しているが、梨ノ木平遺跡(64)では敷石住居が発見され、県指定史跡となっている。また宮地遺跡(33)、小竹A遺跡(50)、前原遺跡(78)からも土器の出土があり全体として、五領ヶ台、勝坂、阿玉台式、大木式土器があった。後期の発掘調査例は少ないが、本遺跡(深沢Ⅱ遺跡、1)で竪穴住居を調査し、近接する深沢B遺跡(47)では土坑や祭祀跡が調査されている。また晩期では国指定遺跡矢瀬遺跡(61)で安行式期の竪穴住居群、四隅袖付炉、水場作業所、半裁材の巨木使用の方形木柱列、墓域といった遺構の他、土器、石器、骨角器の出土を見た。その他、大原遺跡(114)、大原Ⅱ遺跡(114)、十二原遺跡(136)等で土坑も確認されているが、この中で特徴的なのは陥穴の調査例であった。陥穴は測尻遺跡(5)、都B遺跡(83)、村主遺跡(108)、大原遺跡(114)、大原Ⅱ遺跡(114)、十二原遺跡(136)、三後沢遺跡(139)、諏訪遺跡(142)で1～46基が調査されている。その時期を特定できたものには早期のものが都B遺跡(83)、三後沢遺跡(139)、中期のものが諏訪遺跡(142)で確認されている。

弥生時代では中期の竜見町式の土坑1基が大竹遺跡(52)で調査されている。また後期(樽式)の竪穴住居が藪田遺跡(69)、村主遺跡(108)、大原遺跡(114)、十二原遺跡(136)、十二原Ⅱ遺跡(135)、三後沢遺跡(139)、三後沢E遺跡(139)、三後沢C遺跡(139)、諏訪遺跡(142)で調査され、三後沢E遺跡(139)では後期の掘立柱建物1棟が調査されている。

古墳時代の集落遺跡は少なく、諏訪遺跡(142)で後期の竪穴住居5軒を調査したに過ぎない。しかし同じ赤谷川右岸で48基から成る塚原古墳群(152-1～32)があり、詳細は不明であるが群馬大学による昭和28年の調査の際には甲冑、馬具等の出土があったようである(月夜野町教育委員会1992)。また同古墳群のうち、馬場塚古墳(桃野村2号墳、9)からは直刀、鏝、鉄鏟、刀子等が出土し、桃野村19号墳(24)、20号墳(22)、21号墳(21)、22号墳(23)で周溝確認調査等が行われている。

奈良時代の調査例としては大原Ⅱ遺跡(114)で竪穴住居18軒、土坑15基を発掘調査したに過ぎない。

平安時代の遺跡では本遺跡(深沢Ⅱ遺跡、1)、前田原遺跡(37)、深沢遺跡(47)、深沢B遺跡(47)、梨ノ木平遺跡(64)、高平遺跡(67)、藪田東遺跡(69)、藪田B遺跡(70)、洞Ⅰ遺跡(72)、藪田遺跡(69)、村主遺跡(108)、大原遺跡(114)、大原Ⅱ遺跡(114)、十二原遺跡(136)、三後沢C遺跡(139)で竪穴住居の調査があったが、村主遺跡(108)の1軒、大原Ⅱ遺跡(114)の3軒では羽釜が竈に掛ったままの状態出土した。体部に縦位の篋削りが施されたこれらの羽釜は、本遺跡でも出土したもので月夜野古窯群の製品である。月夜野古窯群のうち第4図の範囲では真沢A(36、1基)、深沢B(42・43、4基か)、沢入A(58、2基か)、洞A(76、4基)支群がある。尚、窯跡とされた須磨野A(39)と深沢C(44)は現在窯跡ではない可能性を有する(月夜野町教育委員会1985)。一方、この月夜野窯址群へ供給した粘土採掘坑群が調査された遺跡には藪田東遺跡(69)と藪田遺跡(69)があり、両遺跡の集落は粘土採掘坑を営んだ集落と考えられている。また藪田遺跡(69)や洞Ⅰ遺跡(72)からは多量の土器の出土があった。

中世鎌倉期にあつては洞Ⅱ遺跡(74)で遺構、遺物の調査例があり、室町期にあつては地域領主の居城であり天正8年の北条氏に攻略された小川城址(73)、小川勢が逃走の中継地点とした見城の柵址(57)、天正18年の豊臣秀吉の小田原征伐の発端となった名胡桃城跡(143, 144)がある。小川城址では掘立柱建物群を調査し、名胡桃城跡では掘立柱建物や三の郭の丸馬出などが確認されている。この他中・近世の所産とされる掘立柱建物群が藪田遺跡(69)で調査されている。

近世の遺跡では前中原遺跡(31)で墓壙群、深沢遺跡(47)で掘立柱建物、小竹B遺跡(49)と塚原宿遺跡(153)で暗渠遺構が確認され、下津十二原遺跡(140)では戦時中の岩本発電所用地下水路に係る物資運搬用の橋台跡が発見されている。

〔参考文献〕

群馬県文化財情報システム

(<http://www2.wagamachi-guide.com/gunma/index.asp>)

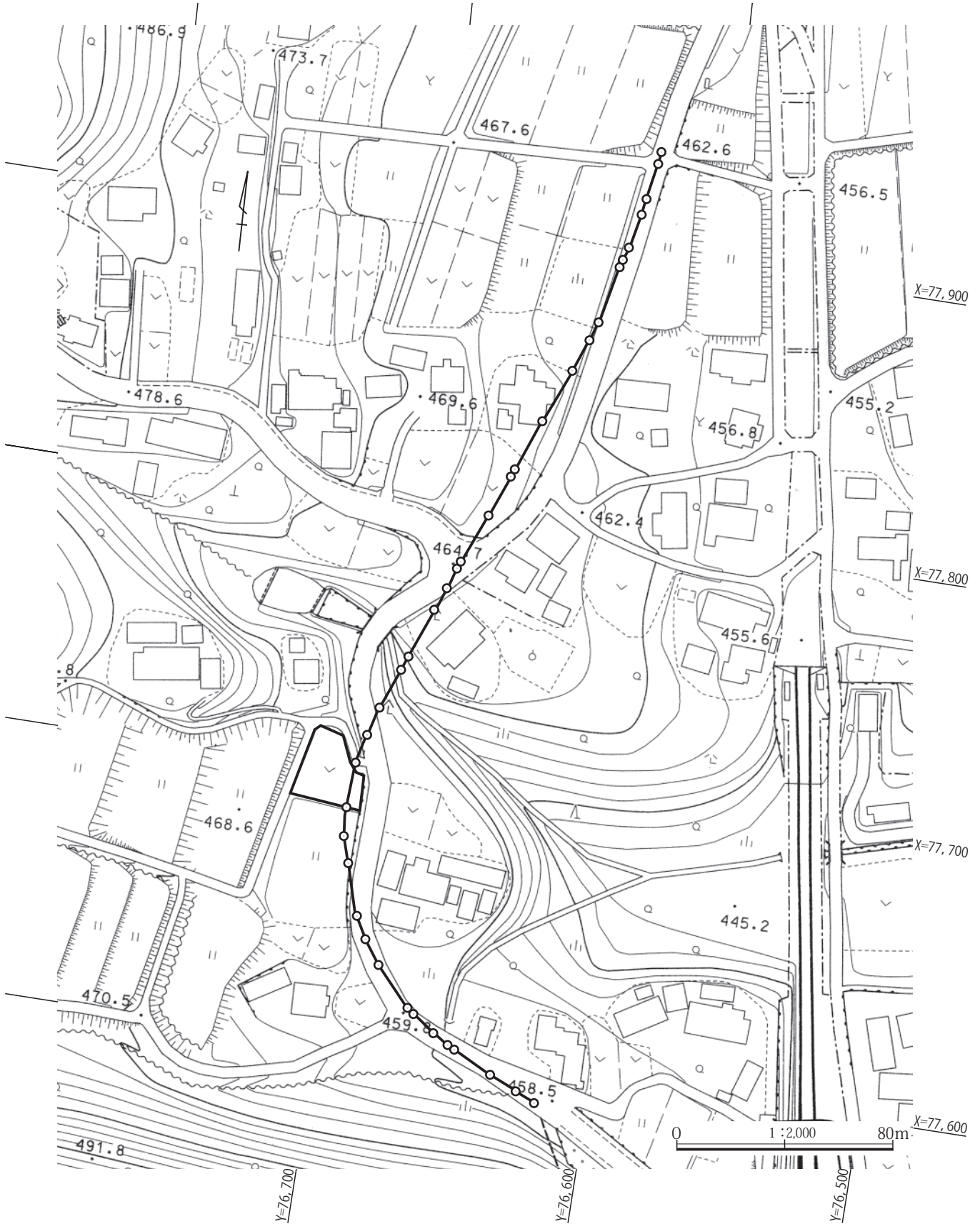
月夜野町教育委員会(1992)『上津地区遺跡群Ⅰ』148

月夜野町教育委員会(1985)『月夜野古窯群』

〔各発掘調査報告書の列記は省略する〕

第3章 調査の方法と基本土層

第1節 調査の方法



第6図 国道291号線及び道路改修路線図 (みなかみ都市計画図IX-H C 30-2 使用)

1 調査区及びグリッドの設定

本遺跡の調査範囲は限定的であったため、区の呼称は「1区」のみとした。

また、グリッドは平面直角座標系(平成14年国土交通省告示第9号)IX系に基づく1mメッシュとし、各グリッドの南東隅のX軸とY軸共に下3桁を用いてグリッド名称とした。尚、表記に当たっては「X軸(数字3桁)・ハイフオン(「-」)・Y軸(数字3桁)」で表記している。尚、本遺跡はX=77683m~X=77710m・Y=-76699m~Y=-76722mの範囲内に在るのであるが、出土遺物が少ないこともあって、調査時点で遺物取上げ等に特にグリッドは特に反映されていない。

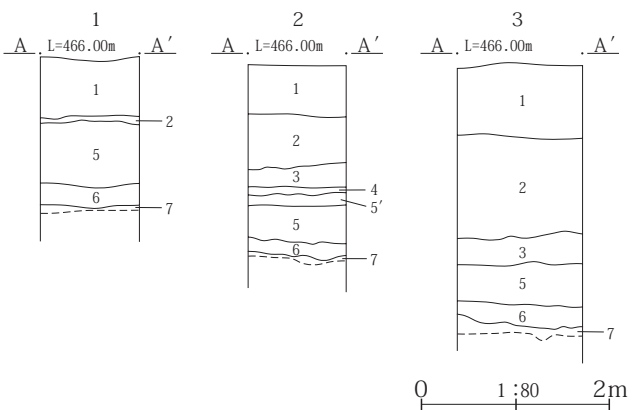
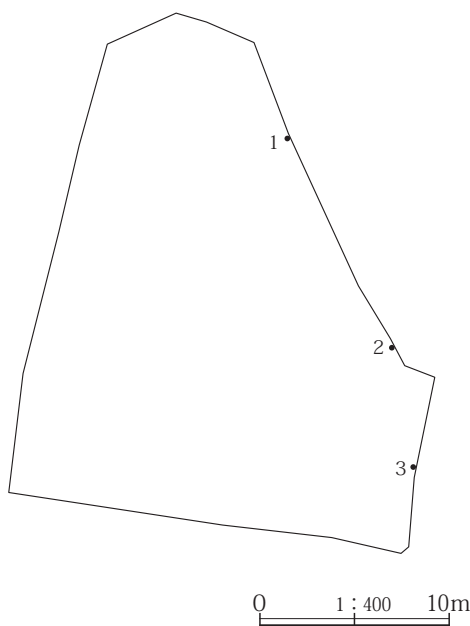
2 発掘調査方法

遺構確認面は試掘調査成果に鑑みV層上面としたが、I~IV層までは建設機械を用いて掘削、除去し、人力にて遺構確認面の表出を行った。

掘削した遺構は記録保存に資するため、適宜平・断面図の測量、或いはデジタル写真とブローニー版によるモノクロ写真撮影を行った。

第2節 基本土層

基本層序は以下の通りである。



基本土層 1~3

1. 黒褐色土(10YR2/3)現表土、根攪乱あり、締り弱い
2. 黄褐色土(10YR5/6)盛土、ローム大~小塊多量、黒褐色土を含む
3. 褐灰色土(5YR4/1)水田耕作土、締りややあり
4. 褐色土(7.5YR4/3)水田床土、酸化鉄分の凝集、硬化
- 5'. 黒褐色土(5YR3/1)水田床土の影響かやや酸化鉄分を含む、締りややあり
5. 黒褐色土(10YR2/2)ローム粒、黄褐色土粒を含む、締りあり、粘質土
6. にぶい黄褐色土(10YR4/3)ローム漸移層、ローム5cm塊、礫を含む、締り粘性あり
7. 黄褐色土(10YR5/8)砂質土、ローム層、礫を多量に含む

第7図 基本土層

【I層】表土であり、黒褐色を呈する。

【II層】盛り土であり、黄褐色を呈し、ロームや黒褐色土を呈する。

【III層】かつての水田耕作土であり、灰褐色を呈する。

【IV層】3層の水田の床土で酸化鉄凝縮層。褐色を呈する。

【V層】黒褐色土。

【VI層】黒褐色粘質土。

【VII層】ローム漸移層土であり、にぶい黄褐色を呈する。

【VIII層】ローム層土であり、黄褐色を呈する。

【IX層】ローム層土であり、にぶい黄橙色を呈する。

【X層】ローム層土であり、にぶい黄橙色を呈するが、IX層に比し色調暗い。

【XI層】にぶい黄褐色砂質土。

【XII層】灰黄褐色粘質土。

I・II層は現代の土層である。また、III・IV層は概ね近世、近代の層と認識されるが、中世段階の層は特定できなかった。またV・VI層は古代から縄文時代の層と認識されるが、層位による明確な時代区分は行えなかった。またVII層は縄文時代から旧石器時代の層位で、VIII~XI層は旧石器時代の層位であり、XII層はそれ以前の層位と認識される。

第4章 発見された遺構と遺物

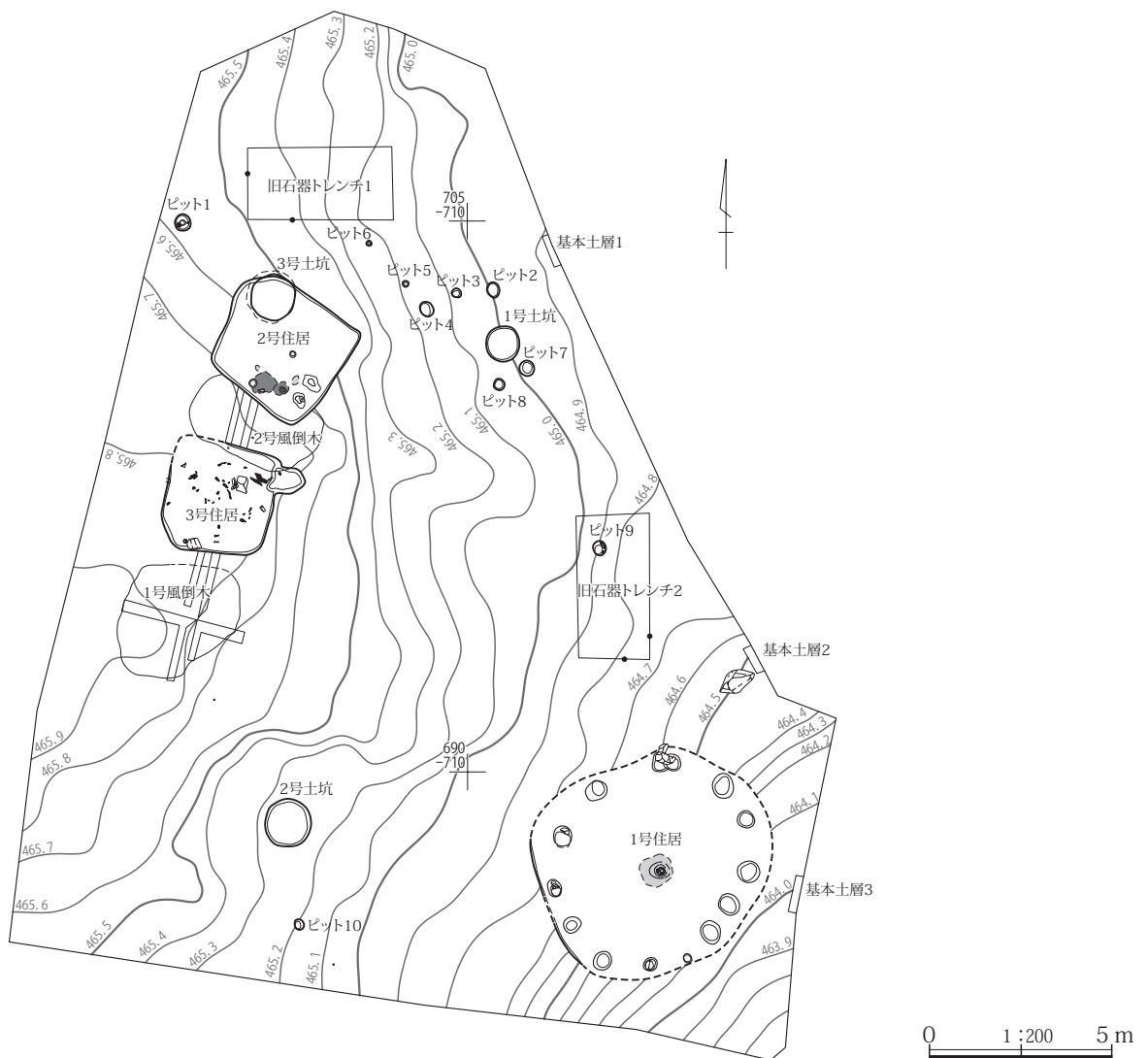
第1節 遺跡の概要

本遺跡に於ける遺構の遺存状態はやや不良であり、上述のように遺構確認面をローム漸移層土(VII層)としたため、縄文時代から平安時代までの遺構を同一調査面として調査することとなった。尚、調査区は南及び東側が段丘崖に向かって落ちている。

遺構の分布は、竪穴住居は南部に縄文時代のものが1軒、中西部に平安時代のもの2軒があり、後者の配置軸

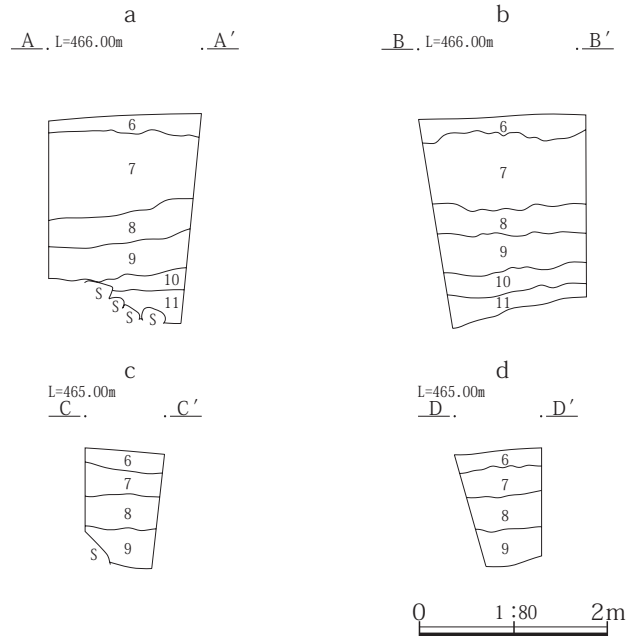
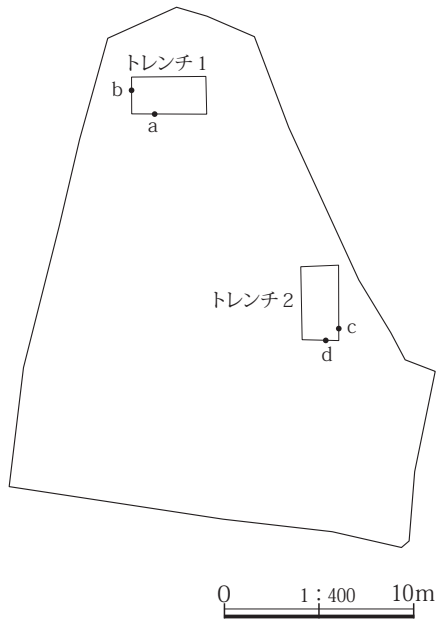
線上に近接して縄文時代の所産と認識される風倒木2基を確認した。また土坑は何れも縄文時代のもので3基あり、北東、北西、南西部に分布している。またピットは何れも平安時代の所産と判断されるもので北東部から中北部にかけて7基、北西部と中東部、南部にそれぞれ1基ずつを確認した。

尚、旧石器時代の層に対する確認調査を実施したが、出土遺物等は得られなかった。



第8図 遺構位置図

第2節 遺構と遺物



旧石器トレンチ 1、2

- 6. にぶい黄褐色土(10YR4/3)ローム漸移層、ローム 5cm塊、礫を含む、締り粘性あり
- 7. 黄褐色土(10YR5/8)砂質土、ローム層、礫を多量に含む
- 8. にぶい黄橙(10YR6/4)ローム層、灰白色 5mm 1%、締り粘性あり
- 9. にぶい黄橙(10YR6/3)ローム層、灰白色 5mm 10%、締り粘性あり
- 10. にぶい黄褐色土(10YR5/3)砂質土、明褐色土粒を含む、締りあり粘性弱い
- 11. 灰黄褐色土(10YR6/2)粘質土、締りあり硬化

第9図 旧石器の試掘図

1 縄文時代の遺構と遺物

(1) 1号住居(第10～12図、PL.2・3・6)

概要 本住居は調査区の南部に位置している竪穴住居である。全体に南東側が削られており、確認面が南に傾斜していたために遺存状態は不良であった。このため上位は大きく削られており、壁面も西壁の一部が確認できたに過ぎず、床面も北西側の一部を確認できたに過ぎなかった。

位置 684-701～690-708グリッド

主軸 N-20°-W

規模 径：(637)×(570) cm、深さ 6 cm

床面積：(28.73㎡)

柱穴(P 1)径60×50cm、深さ75cm

柱穴(P 2)径(53)×(47) cm、深さ17cm

柱穴(P 3)径46×45cm、深さ34cm

柱穴(P 4)径68×58cm、深さ39cm

柱穴(P 5)径48×44cm、深さ20cm

柱穴(P 6)径61×59cm、深さ45cm

柱穴(P 7)径60×53cm、深さ34cm

柱穴(P 8)径65×59cm、深さ34cm

柱穴(P 9)径39×36cm、深さ44cm

柱穴(P 10)径54×48cm、深さ62cm

柱穴(P 11)径49×36cm、深さ44cm

柱穴(P 12)径55×49cm、深さ80cm

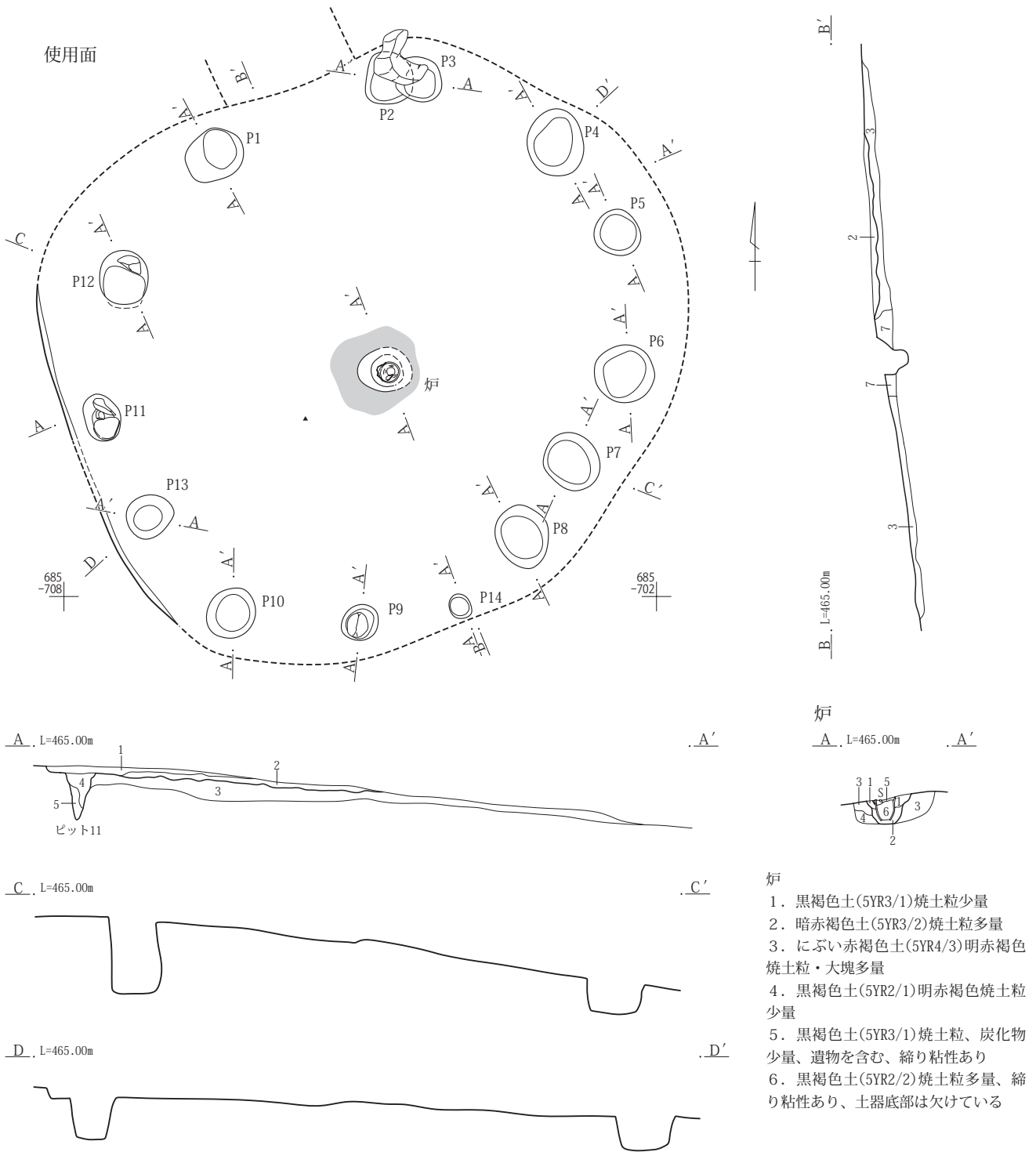
柱穴(P 13)径48×42cm、深さ38cm

柱穴(P 14)径26×22cm、深さ40cm

構造 本住居は上述のように大きく削られているため、その構造を詳らかに記すことができないのであるが、以下に確認できるものを記す。

本住居にあつては遺構中央に径(57)×(45) cm、深さ26cmのピットを掘削し、縄文土器深鉢(1)を正位に埋設した埋嚢炉が設けている。周囲に東西76cm、南北72cmの範囲で下に想定した軸線方向に隅丸長方形プランを呈する焼土化した床範囲が見られた。

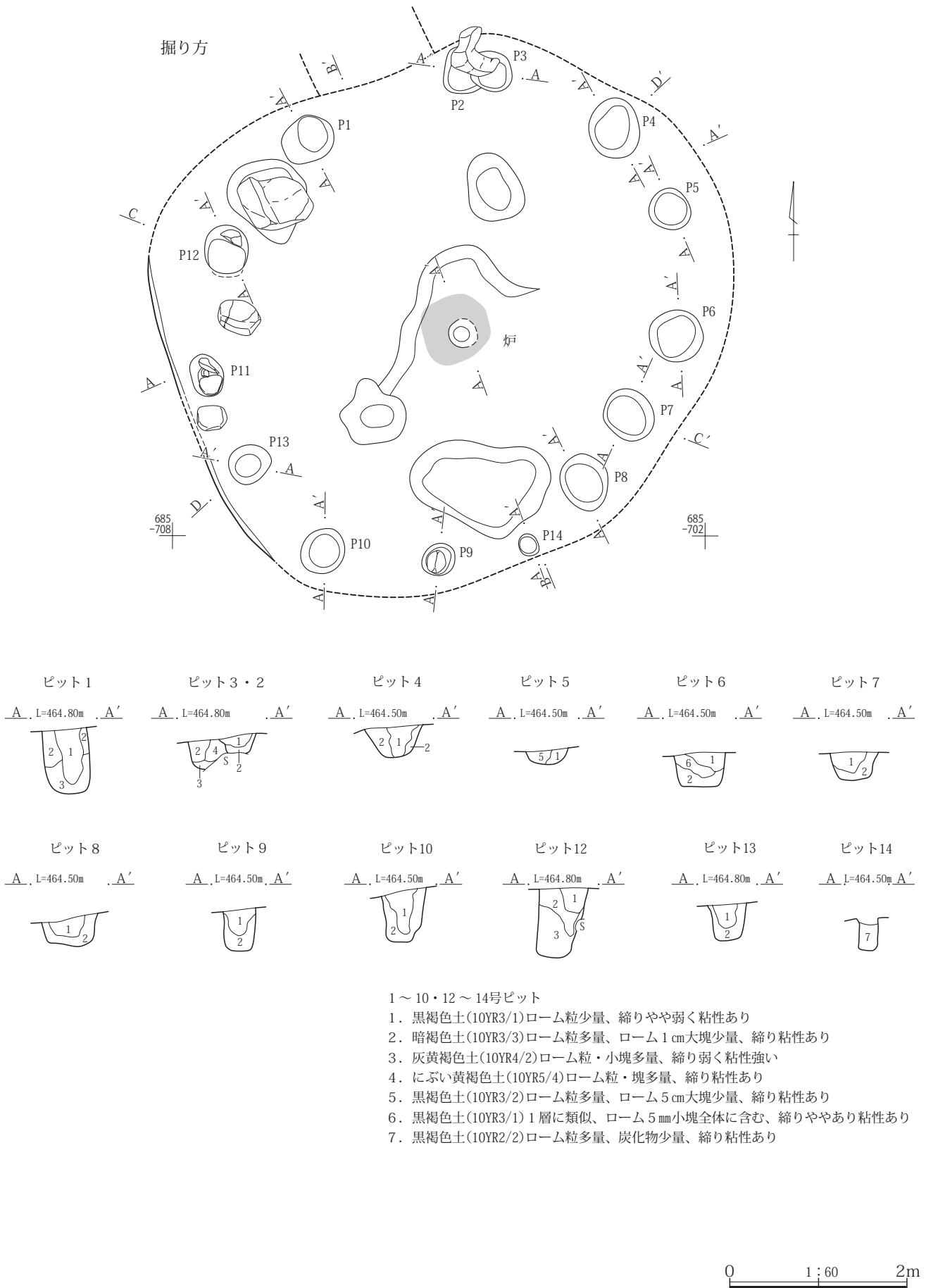
この埋嚢炉を中心として2.2～2.8mの位置に柱穴14基が掘削されたが、これらの柱穴のプランはP 6とP 9が円形、他は楕円形のプランを呈するものである。またこのうちP 2・3は重複するものの新旧関係は不明であり、P 14の規模は他の柱穴に比べて小規模である。



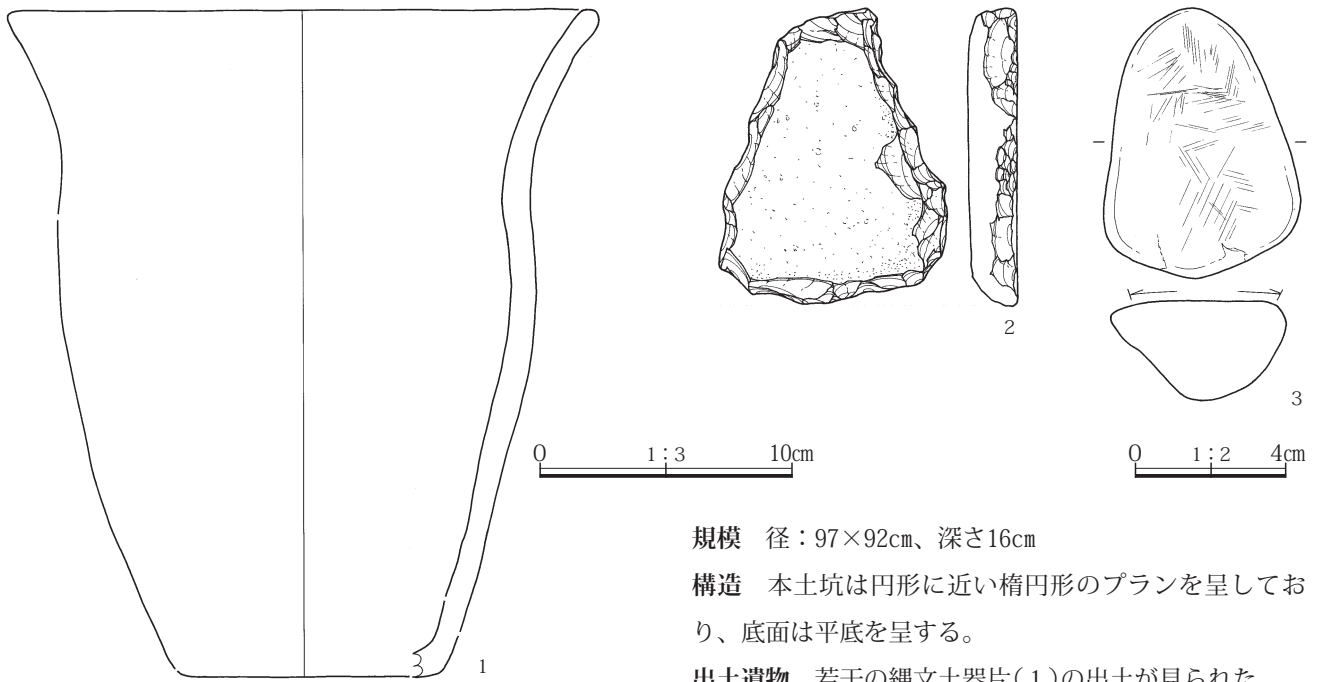
1号竪穴住居

1. 黒褐色土(5YR3/1)基本土層5'に相当、礫、酸化鉄分を含む、縮りあり
2. 黒褐色土(10YR3/2)ローム粒、小礫を含む、縮り粘性あり
3. にぶい黄褐色土(10YR4/3)2層の黒褐色土を含む
4. 黒褐色土(10YR3/1)ローム粒少量、縮りやや弱く粘性あり
5. にぶい黄褐色土(10YR5/3)縮りあり粘性弱い、4, 5はピット11
6. 黒褐色土(5YR2/2)焼土粒多量、縮り粘性あり、土器底部は欠けている
7. にぶい赤褐色土(5YR4/3)明赤褐色焼土粒・大~小塊多量

第10図 1号住居跡(1)



第11図 1号住居跡(2)



第12図 1号住居跡出土遺物

また本住居のプランは、一部を除き上述のように確認できなかったのであるが、この柱穴の配列からプランは円形に近い隅丸方形を呈すると想定される。しかしP1・2間を除く柱間が93～169cmで平均123.75cmであるのに対し、P1とP2の間は197cmと広いためこの間を入口と見做すことができるため、本住居のプランは北北西方向に主軸を持つ柄鏡形であった可能性が窺われる。

出土遺物 無紋の縄文土器深鉢(1)や少量の縄文土器片、加工痕のある剥片(2)、石製研磨具(3)の出土が見られた。

所見 本住居は上述のように遺存状況が不良であったため詳らかにできなかったのであるが、上述のように本住居は柄鏡形住居と想定される竪穴住居であった。その時期は、出土遺物及び想定される建物の平面形態と柱穴の数等から推して、概ね縄文時代後期の所産と認識されるものである。

(2) 1号土坑(第13図、PL.4・6)

概要 本土坑は調査区中東部のやや北寄りに位置しているが遺存状態は良好とは言い難い。

本土坑は単独で在り、他の遺構との重複関係は見られなかった。

位置 701-708～702-709グリッド

主軸 N-23°-E

規模 径：97×92cm、深さ16cm

構造 本土坑は円形に近い楕円形のプランを呈しており、底面は平底を呈する。

出土遺物 若干の縄文土器片(1)の出土が見られた。

所見 本土坑は出土遺物から推して凡そ縄文時代後期(堀之内2式)の可能性を持つ。

(3) 2号土坑(第13図、PL.4)

概要 本土坑は調査区南西部に位置する。遺存状態はやはり良好とは言い難いものであった。

本土坑も単独で在り、他の遺構との重複関係は見られなかった。

位置 687-714～689-715グリッド

主軸 N-3°-E

規模 径：129×125cm、深さ15cm

構造 本住居は円形に近い楕円形のプランを呈し、底面は平底を呈する。

出土遺物 出土遺物は見られなかった。

所見 本土坑の時期は特定できなかったが、覆土から推して凡そ縄文時代の所産と認識される。

(4) 3号土坑(第13図、PL.4・6)

概要 本土坑は調査区北西部に位置する。後述の2号住居の調査に伴って、その北西隅部で確認された。

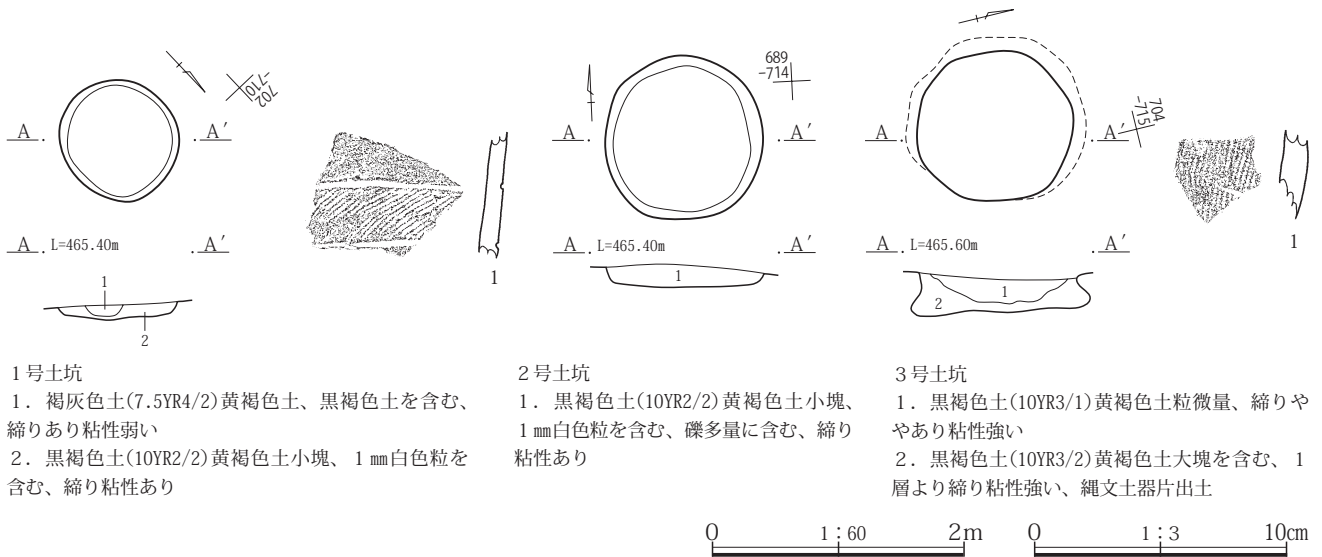
上位は2号住居に切られており確認できなかった。

位置 702-714～703-715グリッド

主軸 N-0°

規模 径：127×127cm、深さ32cm

構造 本住居は円形のプランを呈する。底面は平底を成



1号土坑

1. 褐灰色土(7.5YR4/2)黄褐色土、黒褐色土を含む、縮りあり粘性弱い
2. 黒褐色土(10YR2/2)黄褐色土小塊、1mm白色粒を含む、縮り粘性あり

2号土坑

1. 黒褐色土(10YR2/2)黄褐色土小塊、1mm白色粒を含む、礫多量を含む、縮り粘性あり

3号土坑

1. 黒褐色土(10YR3/1)黄褐色土粒微量、縮りややあり粘性強い
2. 黒褐色土(10YR3/2)黄褐色土大塊を含む、1層より縮り粘性強い、縄文土器片出土



第13図 土坑と出土遺物

すが、袋状土坑であった可能性を有する。

出土遺物 若干の縄文土器片(1)の出土が見られた。

所見 出土遺物から凡そ縄文時代後期の所産と認識される。

また遺構の形態からは貯蔵穴として掘削された可能性が考慮される。

(5)風倒木痕(第14・15図、PL.5)

概要 調査区中西部南寄り3号住居の南に1号風倒木、調査区中西部北寄りの2・3号住居の間に2号風倒木の2箇所、の風倒木痕を確認した。

何れも2・3号住居と通しのセクションを設定して、幅の狭いトレンチを掘削して確認しただけであるが、倒木方向は1号風倒木は南東方向と認識されるものの、2号風倒木は把握し得なかった。

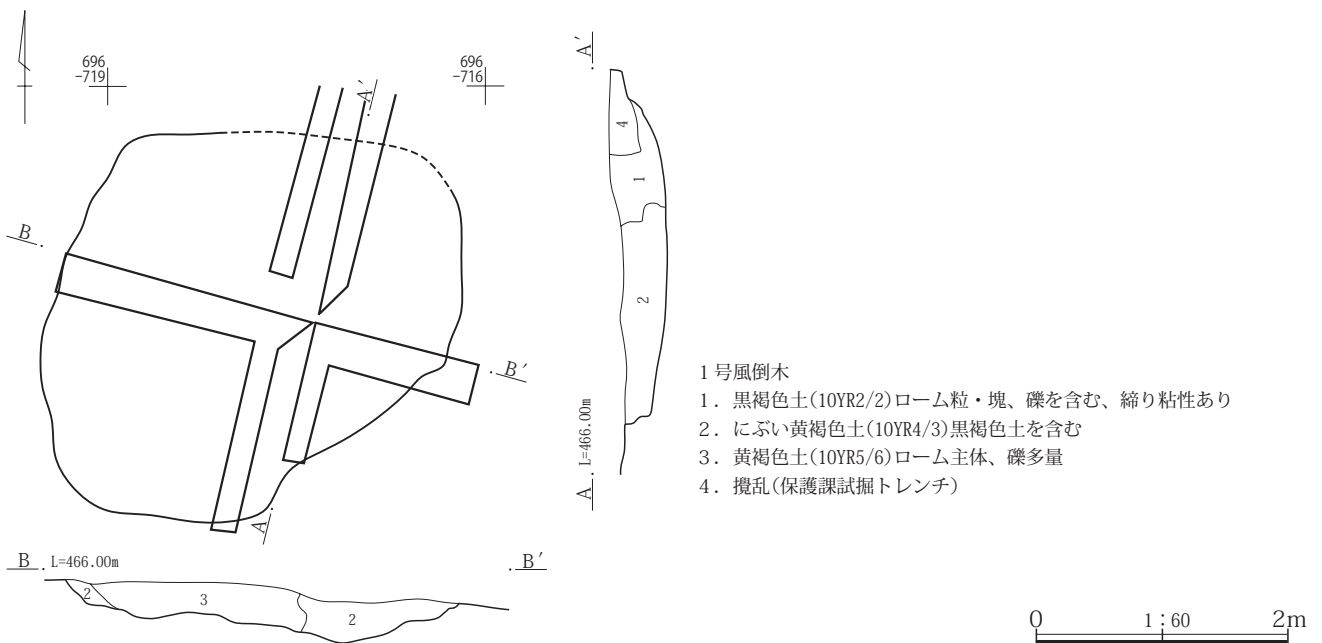
位置 (1号風倒木) 702-714 ~ 703-715グリッド

(2号風倒木) 702-714 ~ 703-715グリッド

規模 (1号風倒木)径: 320×310cm

(2号風倒木)径: 365×(243) cm

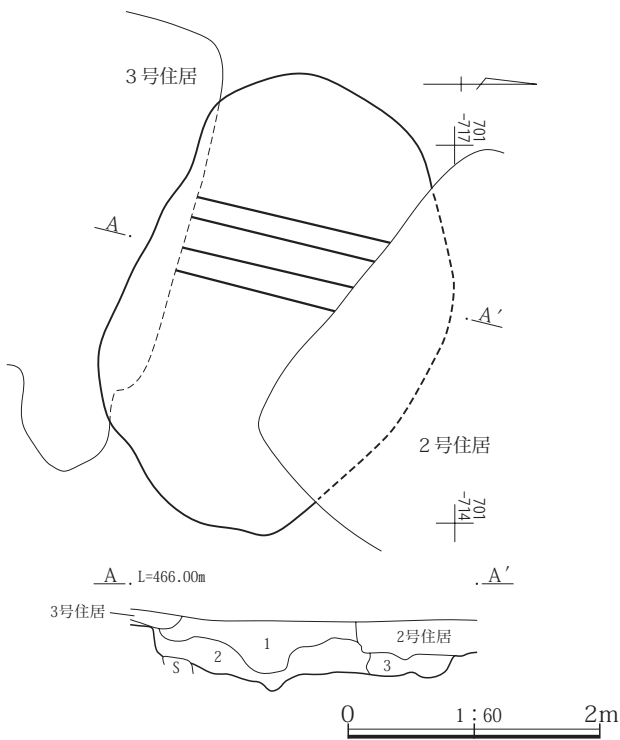
所見 覆土から推して何れも縄文時代の所産と想定される。



1号風倒木

1. 黒褐色土(10YR2/2)ローム粒・塊、礫を含む、縮り粘性あり
2. にぶい黄褐色土(10YR4/3)黒褐色土を含む
3. 黄褐色土(10YR5/6)ローム主体、礫多量
4. 攪乱(保護課試掘トレンチ)

第14図 1号風倒木痕



2号風倒木

1. 黒褐色土(10YR3/1)暗褐色土を含む、礫少量、締り粘性あり
2. 暗褐色土(10YR3/3)にぶい黄褐色土を含む、礫多量、締りややあり粘性弱い
3. 黒褐色土(10YR3/2)ローム粒、黄褐色土粒を含む、色味は白い、締り弱く粘性あり

第15図 2号風倒木痕

2 平安時代の遺構と遺物

(1) 2号住居(第16～19図、PL.3・6・7)

概要 本住居は調査区北西部に位置する竪穴住居である。

床面は残されていたものの、上位が削平されていて遺存状態は良好とはいえないものであった。

本住居は何れも縄文時代の3号土坑、2号風倒木痕と重複し、これらを切っている。また後述の3号住居が南側に近接して掘削されている。

位置 699-712～703-716グリッド

主軸 E-18°-N

規模 径：355×315cm、深さ20cm

床面積：10.1㎡

柱穴(P1)径23×23cm、深さ13cm

柱穴(P2)径18×18cm、深さ19cm

構造 本住居のプランは、南西隅は3号土坑の存在のためか若干膨らみを持って掘削されているが、全体としては概ね方形に近い隅丸長方形を基本として掘削されているものと判断される。

本住居の竈は明確には遺されていないが、南東部に焼土の分布域があり、これに粘土が乗っている箇所も有る。この焼土分布域によって本住居の竈は東壁南寄りに設けられていたと思慮される。また焼土分布域の東側、東壁際の際のやや南寄りには北側に東西56cm、南北39cm、高さ8cm以下、南側に東西45cm、南北33cm、高さ7cm以下の何れも東西方向に長い高まり2箇所が58cmの間隔を空けて遺されているが、これらは袖の痕跡と見られる。

床面に於いて貯蔵穴、柱穴等は確認できなかった。しかし、掘り方面の北東隅部に於いては南北108cm、東西93cm以上を測り、ロームブロックを多く含む粘性のあるにぶい黄褐色土と黒褐色土で埋められた方形の掘り込みがあり、これが貯蔵穴であった可能性を有する。この掘り込みは掘り方面で深さ10cmを測るが、床面からの深さは15cm程を測る。

本住居は掘り方を有しており、粘性の弱いにぶい黄褐色土で埋め戻して床面を作っている。また掘り方の北東隅部には上述の方形の掘り込みと、その西に南北138cm、東西153cm、深さ24cmを測る不整形な掘り込みがある。後者の掘り込みは焼土を含む暗褐色土と黒褐色土で埋められているため、所謂床下粘土坑であった可能性も考慮される。

出土遺物 本住居からの出土遺物は比較的多く出土しており、特に住居南壁際東寄り、上述のように想定される竈の前に集中的に遺物の出土する箇所があった。

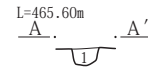
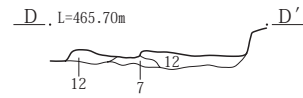
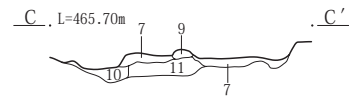
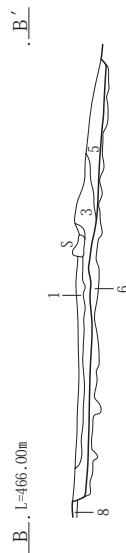
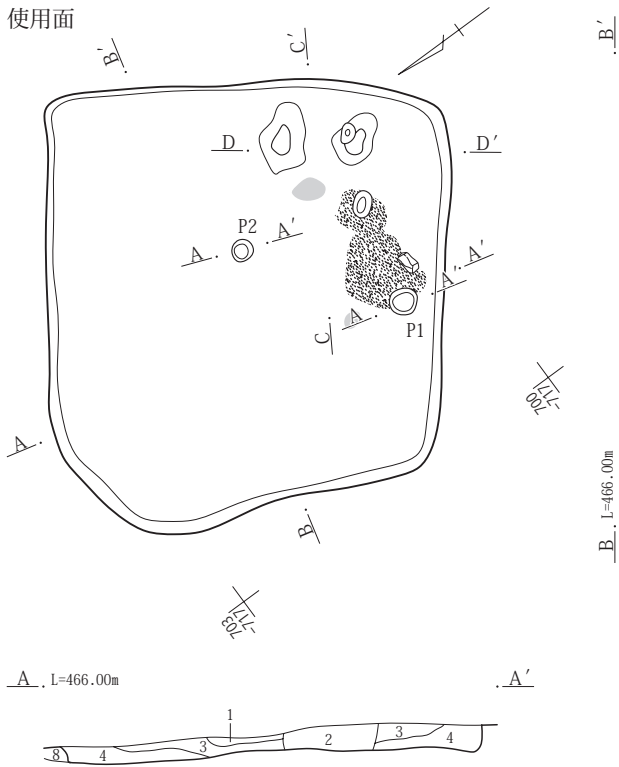
出土遺物には須恵器杯(1～3)・椀(4・5)・皿(6)・片口鉢(7)・羽釜(8～20)・瓶(21)や須恵器、土師器片の出土が見られた。このうち須恵器は近隣の月夜野窯址群の製品と認識されるもので、このうち羽釜は何れも体部に縦位の篋削りを施す月夜野型のものであった。

所見 本住居は柱を持たない平安時代に一般的な小型の竪穴住居であり、その主軸方向から条里方眼には依拠しない、自然地形に沿って建てられた建物と認識される。その時期は出土遺物から10世紀の所産と判断される。

(2) 3号住居(第20・21図、PL.3・4・8)

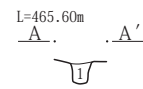
概要 本住居も調査区中西部に位置する竪穴住居であり、所謂焼失家屋である。遺存状態は良好とはいえないが東側が特に強く削平されている。

本住居は縄文時代の2号風倒木痕を切っている。



1号ピット

1. 黒褐色土(10YR3/1)黄褐色土粒微量、締り弱く粘性あり



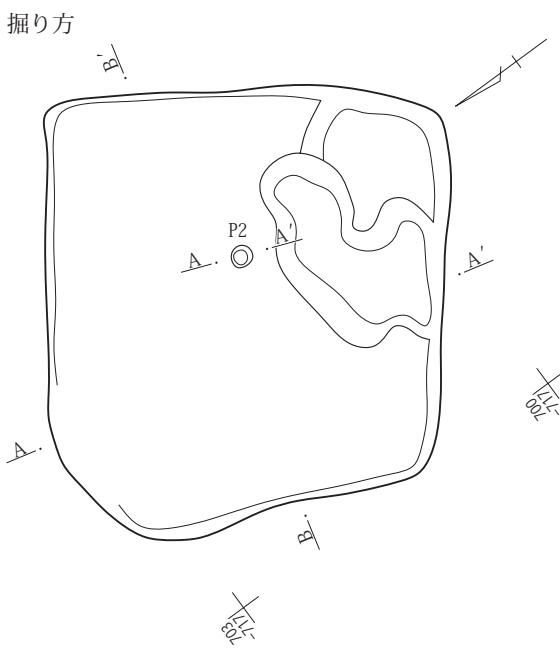
2号ピット

1. 黒褐色土(10YR3/1)黄褐色土粒少量、炭化物微量、締りややあり粘性あり

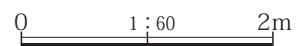
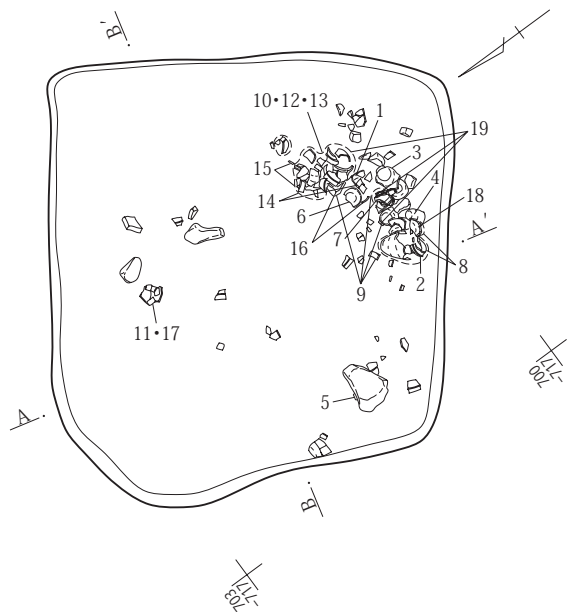
2号竪穴住居

1. 黒褐色土(10YR3/1)礫、炭化物、ローム粒を含む、締り弱い
2. 攪乱(保護課試掘トレンチ)
3. 黒褐色土(10YR2/3)焼土粒、炭化物を含む、黄褐色粒少量、締り粘性あり
4. 黒褐色土(10YR3/1)ローム粒少量、締り粘性あり
5. 暗褐色土(10YR3/3)ローム 5cm大塊を含む、締り粘性あり
6. にぶい黄褐色土(10YR4/3)黒褐色土塊を含む、締りあり粘性弱い

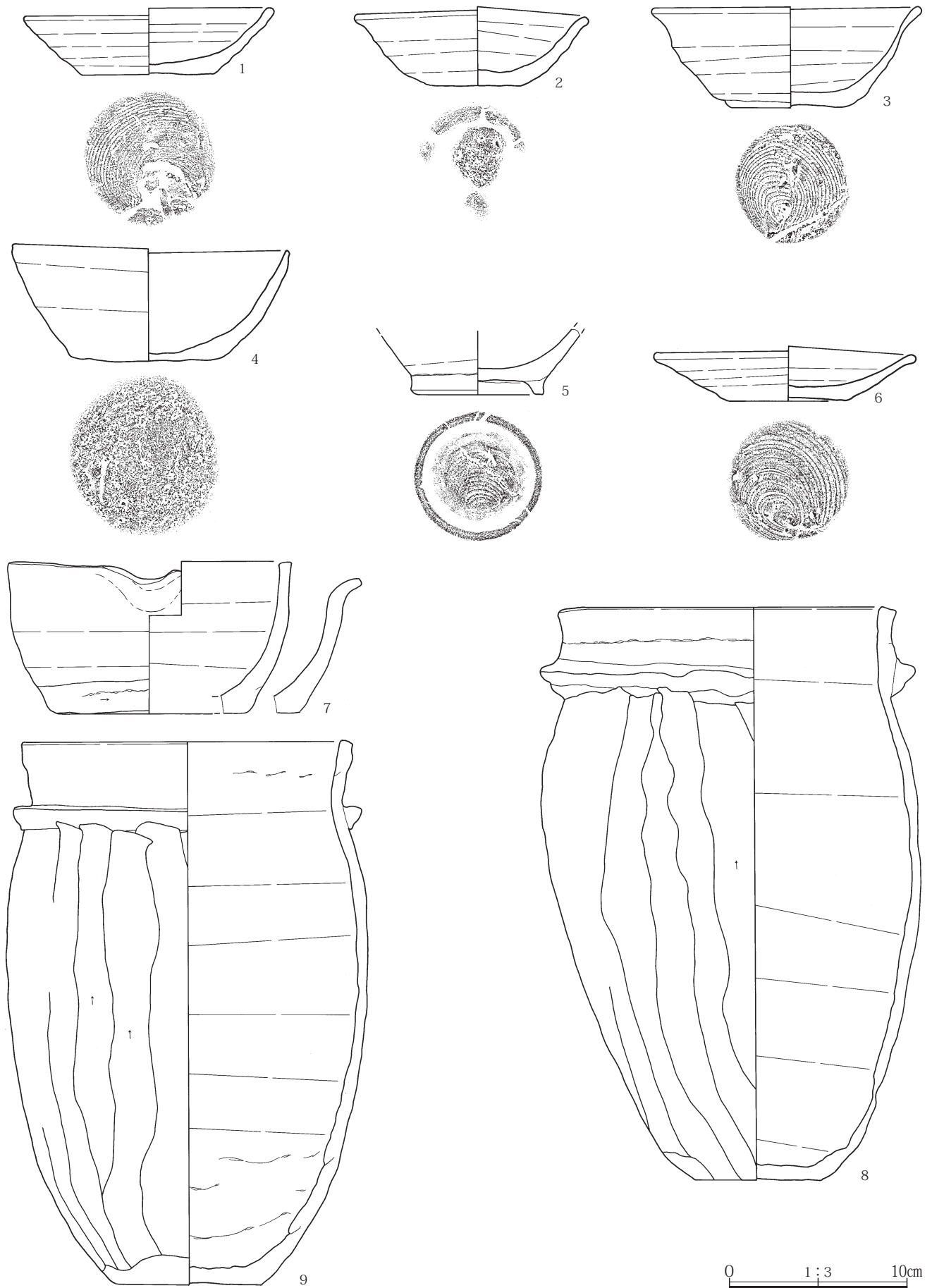
7. 黒褐色土(10YR3/2)ローム 5cm大塊を含む、灰白色砂質土を含む、締り粘性あり
8. 地山、基本土層 6層
9. 暗褐色土(10YR4/3)焼土粒多量、締り粘性あり
10. 黒褐色土(10YR2/2)ローム粒、黄褐色土粒を含む、締り弱く粘性あり、2号風倒木 3層に近似
11. 黒褐色土(10YR2/3)ローム粒、黄褐色土粒多量、礫を含む、締りあり粘性弱い
12. にぶい黄褐色土(10YR5/4)ローム 5~10cm大塊多量、礫を含む、締り粘性あり



遺物出土状態



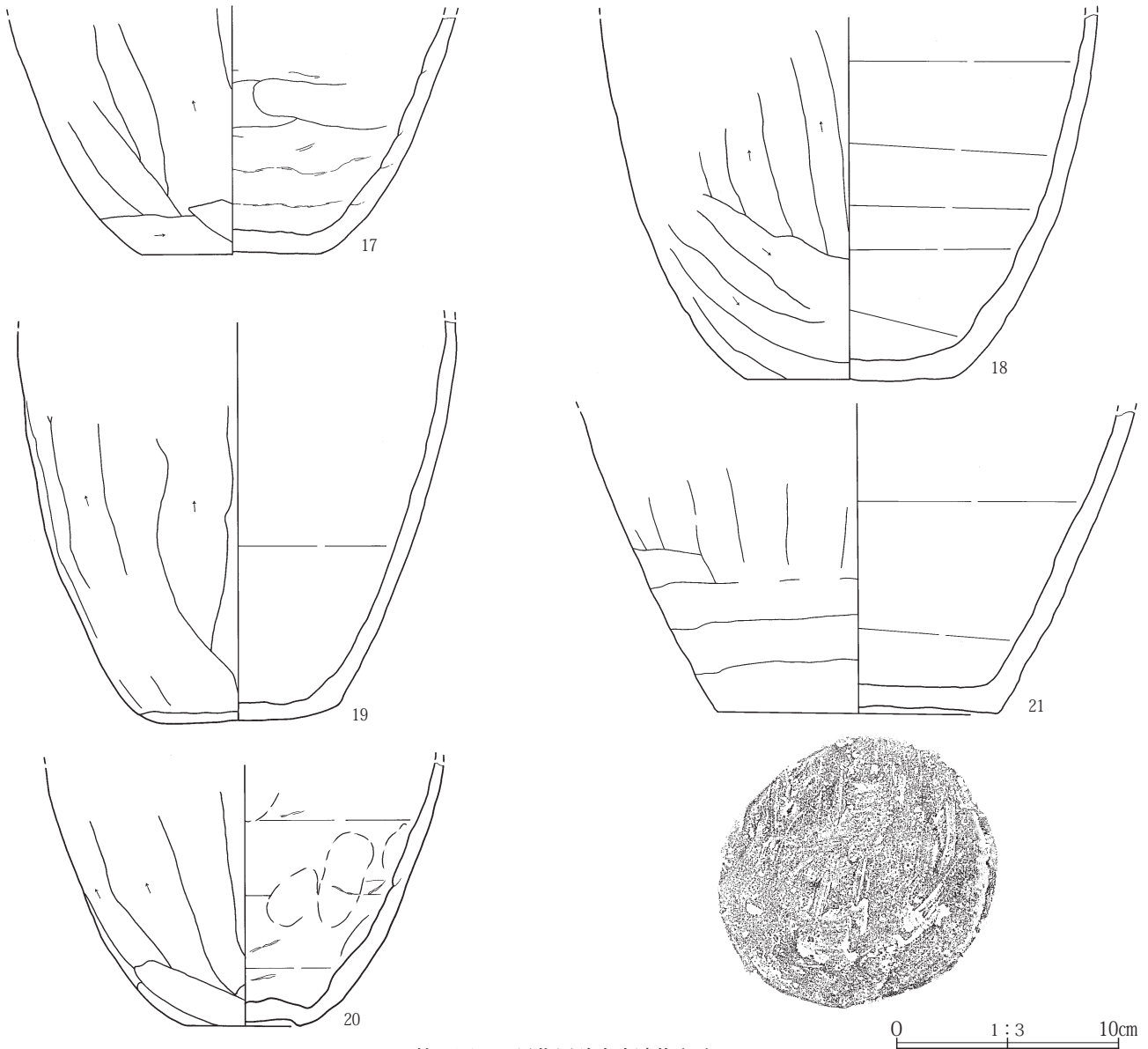
第16図 2号住居跡



第17図 2号住居跡出土遺物(1)



第18図 2号住居跡出土遺物(2)



第19図 2号住居跡出土遺物(3)

位置 765-714～769-718グリッド

主軸 E-22°-N

規模 径：(637)×(570) cm、深さ6 cm

床面積：(8.88) m²

柱穴(P 1)径26×24cm、深さ13cm

柱穴(P 2)径36×24cm、深さ15cm

柱穴(P 3)径21×20cm、深さ15cm

柱穴(P 4)径45×28cm、深さ22cm

構造 本住居は台形に近い隅丸台形のプランを呈する。

ピットを4箇所確認しているが、本住居は柱を持たない竪穴住居と判断される。垂木材と見られるものを主とする炭化材が残るが、これらの樹種はクリ材を中心としている。また炭化材のうちクリとは異なる樹種と見られ

るNo. 26は概ね東西方向を向いており、また北寄りに位置して垂木と考えられるNo. 29は東北東方向を向き、一木で同じく垂木と考えられるNo. 16・24は北北西から北西を向くことから推して、No. 26は棟材の可能性を有する。従って本住居の棟の位置は北に寄っていて、降雪地帯に見られる偏った位置に棟の来る建物と想定される。

また、本建物は焼却処分されたものと想定されるが、炭化材の分布状況から、着火地点は南壁中央付近で、南風の時に焼却されたものと判断される。

本住居の竈は東壁北寄りに設けられているが、この位置は想定される上述の棟の位置に一致する。竈は壊されていて形状は確認できなかったが、壁面を幅71cm、奥行き76cmに掘り込んで燃焼部を作り出している。掘り方に

於いて、壁際の北側に径32×19cm、深さ16cm、南側に径30×16cm、深さ16cmを測る南北に長軸を持つピットが34cmの間隔で確認され、燃烧部奥側北壁に沿って49×18cm、深さ5cmを測り長軸を東南東、南壁に沿って36×14cm、深さ9cmを測り長軸を東北東に取るピットが32cmの間隔を以て確認されているが、これらのピットに対しては袖石の抜痕の可能性が考えられる。

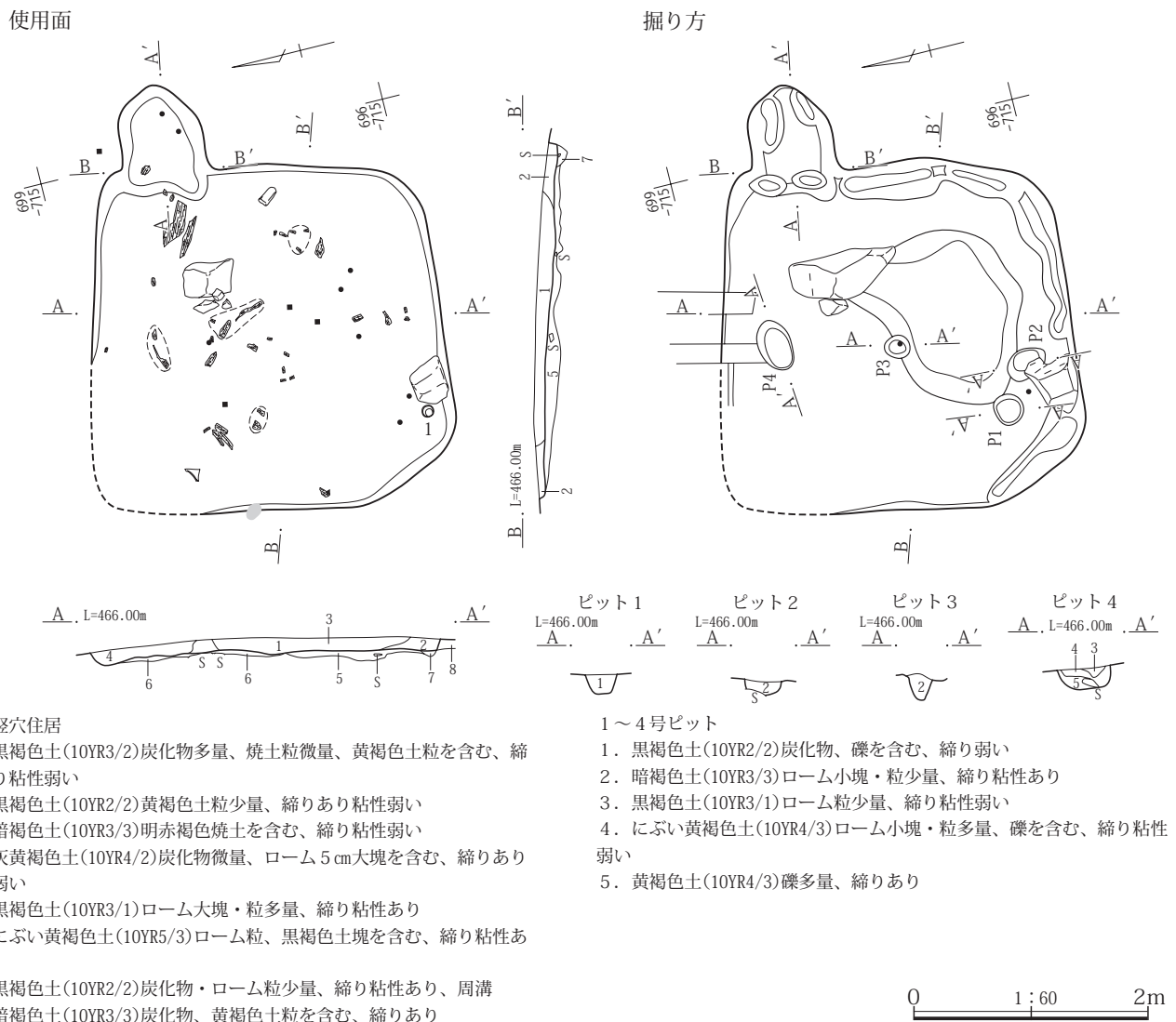
上述のように竈は壊されていて詳細は不明だが、竈は壁面を盾形のプランに掘り込んで浅い掘り方を掘削し、上述のように壁面手前の竈の左右と壁面奥の燃烧部奥側の左右に袖石を立てていた可能性を有し、炭化物を含むにぶい黄褐色土や黒褐色土等で埋め戻して床面を形造っている。また覆土の観察から、少なくとも天井部にはぶい黄褐色土で作られていたものと思慮される。

本住居は掘り方を有しており、黒褐色土を主体とした土で埋め戻して床を作り出している。掘り方には幅12～22cm、深さ7～13cmを測る周溝が南東から南壁、そして東壁の北寄り竈手前まで掘削されているのが確認された。また中南部には155×121cm、深さ8cmを測る楕円形様の掘り込みが見られた。

出土遺物 本住居からは土師器、須恵器片の出土を見たが、この中には須恵器杯(1)の出土が見られた。

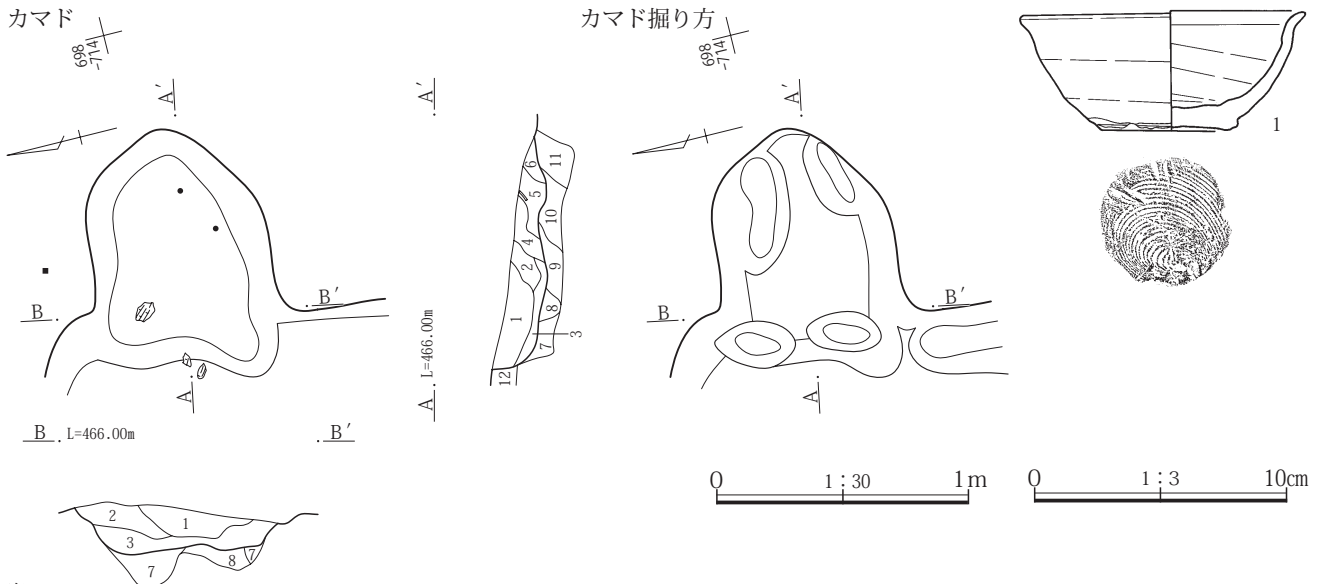
また炭化材の出土が見られた。樹種は表3にまとめたが、上述のようにクリが26資料、クヌギが2資料、散孔材が4資料、不明が1資料で、クリ材が多かった。

所見 本住居は出土遺物から10世紀の所産と判断される。



第20図 3号住居跡

第4章 発見された遺構と遺物

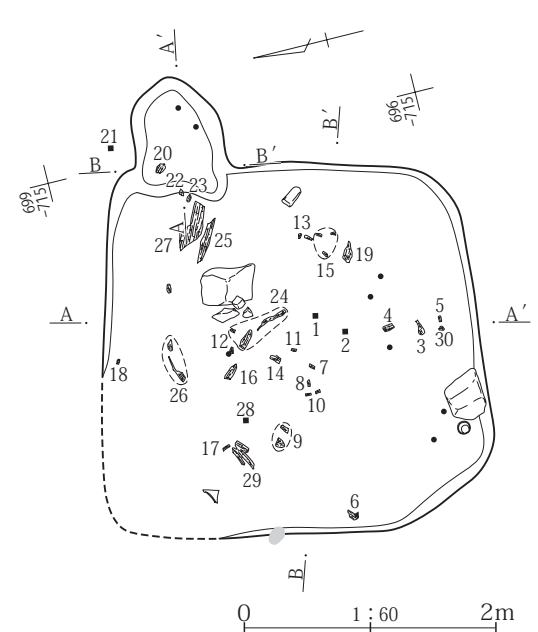


- 竈
1. 黒褐色土(10YR3/1)礫5cm大を含む、焼土粒微量、炭化物少量、締り粘性ややあり
 2. 黒褐色土(10YR3/2)焼土粒少量、締り弱く粘性あり
 3. 黒褐色土(10YR2/3)ローム粒少量、締りあり
 4. にぶい黄褐色土(10YR4/3)焼土粒多量、黒褐色土を含む、締りあり
 5. 明赤褐色土(5YR5/8)焼土塊主体、遺物を含む
 6. 黒褐色土(10YR3/1)3層に類似、締り粘性あり
 7. にぶい黄褐色土(10YR5/4)炭化物少量、礫を含む、締りあり、7層以下掘り方
 8. 黒褐色土(10YR3/1)炭化物、黄褐色土粒を含む、締りあり
 9. 灰黄褐色土(10YR4/2)黄褐色土粒少量、礫を含む、締りあり
 10. にぶい黄褐色土(10YR5/3)明赤褐色焼土小塊・粒多量、黒褐色土を含む、締りあり
 11. 黒褐色土(10YR3/2)炭化物多量、硬化
 12. 黒褐色土(10YR2/2)炭化物・ローム粒少量、締り粘性あり

表3 3号住居跡出土炭化材一覧微細物同定結果

試料No.	樹種	大きさ・形状	その他の情報
No 1	クリ	3.5×3×1cmの破片	小径木の分枝部で年輪波打つ
No 2	クリ	3.5×0.7×1.1cm大径木の割材状	年輪幅2.5mm
No 3	クリ	1.5×0.5×1.4cm他大径木の破片多数	年輪幅1mm
No 4	クリ	3.4×0.6×1.1cm他大径木の破片多数	年輪幅1.5～3mm
No 5	クリ	4.5×2.5×1.5cm	
No 6	クリ	3.3×0.4×2.5cm他薄板状破片多数	年輪幅5mm
No 7	クリ	3×1×1cm他小破片多数径2cm丸木の破片	年輪幅5mm
No 8	クリ	小破片	年輪幅4mm
No 9	不明	微小破片	
No10	クリ	径1.5cmの丸木の長さ2～3cmの小破片多数	
No11	クリ	3.5×0.7×2cm他大径木の破片多数	年輪幅1.5mm
No12	クリ	2.2×0.4×0.4cm他小破片多数	年輪幅4mm
No13	クリ	1.8×0.9×1.1cm他小破片	年輪幅3mm
No14	クリ	径4cm+10.5×4×3.5cmの破片	年輪が折れ曲がり径不明
No15	クリ	3.3×0.7×0.9cm他1～3cmの破片多数	年輪幅2mm
No16	クリ	4.7+×2.4×1.5cm他2cmほどの大径木破片多数	年輪幅3mm
No17	クリ	1.5×1×0.5cm他小破片多数	
No18	クスギ	3×1.5×3.5cm割材破片	推定径8cm
No19	クリ	6.5×2×1.5cm他1～4cm程の破片多数	推定径8cm
No20	クリ	2.5×1.5×0.7cm	年輪幅1.5mm
No20	散孔材	径2cm(10年輪)長さ2.2cm丸木破片	年輪細かく10年輪を数える
No21	クリ	1×2×1.5cm他小破片多数	年輪幅2～3mm、虫食い孔(2mm)あり
No22	散孔材	4×1.7×1.5cm 径2.5cm丸木の破片	年輪細かく半径に15年輪を数える
No23	散孔材	3.5×3×1.5cm 径3.5cm小丸木破片	年輪細かく5mm内に10年輪を数える
No24	クリ	4.5×3.5×1.5cm丸木破片	年輪幅3～4mm推定径10cm
No25	クリ	1.7×1.5×1.5cm他丸木破片多数	推定径10cm以上、他に3.5×2×0.1cmの樹皮あり
No26	クリ	丸木破片多数	年輪幅1.5mm推定径10cm
No26	散孔材	4×1.5×0.7cm推定径1.5cm丸木破片	年輪細かく3mmに8年輪を数える
No27	クリ	11×3.5×3cm他1～10cmの破片多数	年輪幅1～2mm大径木
No28	クリ	小破片多数	
No29	クスギ	小破片	
No30	クリ	1～3cmの破片多数	

炭化材出土状態



第21図 3号住居跡カマドと出土遺物及び炭化材出土位置

(3)ピット群(第22図、PL.4・5・8)

概要 本遺跡の発掘調査に於いては10基のピットを発見、調査した。このうち1号ピット(P1)が北西部、9号ピット(P9)が中東部、10号ピット(P10)が南部にそれぞれ位置しているものの、2～8号ピット(P2～P8)は北東部南寄りにまとまって所在している。

これらはどれも単独で在り、他遺構との重複は認められなかった。

掘削意図は、断面観察から1号ピットが柱穴と判断され、4・7・9号ピットも柱穴の可能性を有する。またその規模から5・6号ピットは杭の可能性が考慮されるが、2・3・8・10号ピットの掘削意図を特定することはできなかった。尚、ピット群から建物を想定することもできなかったが、1号ピットは調査区の西側に在る掘立柱建物或いは柵の一部と考えられる。

位置 (P1) 704～705-717グリッド

(P2) 702～703-709グリッド

(P3) 702～703-710グリッド

(P4) 702-710～711グリッド

(P5) 703-711グリッド

(P6) 704-712グリッド

(P7) 700～701-708グリッド

(P8) 700-708～709グリッド

(P9) 695～696-706グリッド

(P10) 685-714グリッド

主軸 (P1)N-0° (P2)N-17°-W

(P3)N-47°-W (P4)N-30°-W

(P5)N-0° (P6)N-0°

(P7)N-29°-W (P8)N-25°-W

(P9)N-8°-W (P10)N-40°-W

規模 (P1)径：45×43cm、深42cm

(P2)径：42×34cm、深35cm

(P3)径：27×24cm、深19cm

(P4)径：42×34cm、深44cm

(P5)径：16×16cm、深17cm

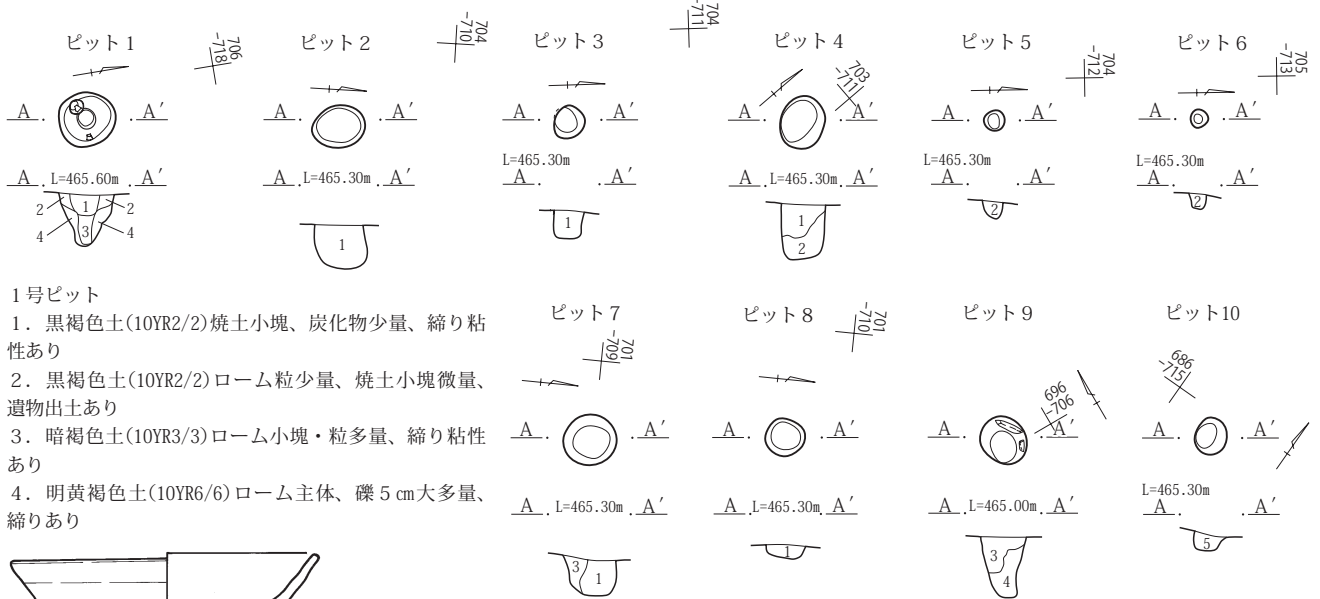
(P6)径：14×14cm、深13cm

(P7)径：43×40cm、深32cm

(P8)径：32×31cm、深13cm

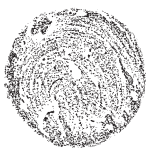
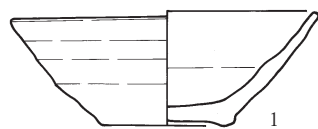
(P9)径：40×35cm、深49cm

(P10)径：29×26cm、深16cm



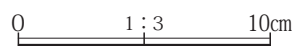
1号ピット

1. 黒褐色土(10YR2/2)焼土小塊、炭化物少量、締り粘性あり
2. 黒褐色土(10YR2/2)ローム粒少量、焼土小塊微量、遺物出土あり
3. 暗褐色土(10YR3/3)ローム小塊・粒多量、締り粘性あり
4. 明黄褐色土(10YR6/6)ローム主体、礫5cm大多量、締りあり



2～10号ピット

1. 黒褐色土(10YR2/2)ローム粒・黄褐色土小塊多量、締り粘性あり
2. 黒褐色土(10YR2/2)ローム粒少量、締りやや弱く粘性強い
3. にぶい黄褐色土(10YR4/3)黒褐色土を含むローム粒・小塊多量、締り粘性あり
4. 黒褐色土(10YR3/2)灰白色粒少量、締り粘性あり
5. 黒褐色土(10YR3/1)礫多量、ローム粒少量、締り粘性あり



第22図 ピットと出土遺物

構造 プランは1・5号ピットは円形、2・24・9・10号ピットは楕円形、3号ピットは不定形を呈する。

底面形態は1・2・5・7号ピットが丸底、他は平底を呈する。

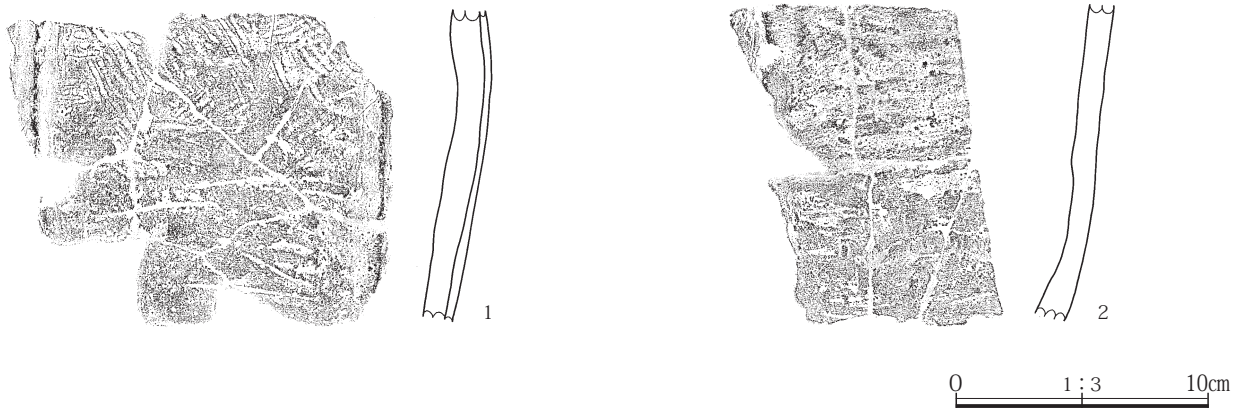
出土遺物 1号ピットからは須恵器杯(1)や椀などの出土が見られたが、他のピットからの遺物の出土は見られなかった。

所見 出土遺物から推して1号ピットは10世紀前半期の

所産と認識されるのであるが、他のピットについては覆土から推して凡そ2・3号住居と同時期比の所産と想定されるに過ぎなかった。

3 遺構外の遺物

包含層中からは縄文時代及び平安時代の土器、石器等若干の出土遺物を得ているが、この中には縄文土器片(1・2)の出土が見られた。(第23図、PL.8)



第23図 遺構外の出土遺物

小 結

以上のように本遺跡では縄文時代後期の住居1軒と縄文時代と見られる土坑3基、風倒木痕2箇所、及び10世紀前半期の竪穴住居2軒と平安時代のピット10基を調査し、縄文土器5点、石器2点、須恵器23点を図示、掲載した。

本文に記したように調査した1号住居の遺存状態は悪かったものの、柄鏡形住居になる可能性を有する。本遺跡付近で発掘調査された縄文時代後期の遺跡は深沢B遺跡だけであり、その前・中期の遺跡に比べその分布は少ない。従って本遺跡周辺にあって本遺跡の調査例は貴重なものとなる。

また平安時代の住居、特に2号住居からはまとまった須恵器が出土しているが、これらは月夜野窯跡群で生産されたものである。本遺跡南西に近接する菟田東遺跡で

は須恵器の生産に供給する粘土の採掘坑が発見され、須恵器生産に関連した集落と見られているが、本遺跡の竪穴住居も同様に須恵器生産に関連した集落の一部と見做すことができるものと思慮される。また1号ピットの存在によって、これらの竪穴住居を含む集落内には掘立柱建物の建っていた可能性も思慮される。

最後になるが、本遺跡の調査にあたっては沼田土木事務所、みなかみ町教育委員会、そして地元の皆様には大変お世話になりましたことを感謝申し上げます。

出土遺物観察表

1号住居

No.	挿図 PL.No.	器形	残存	区	名	遺構種	取上番号	胎土	色調	焼成	文様の特徴等	備考
1	第12図 PL.6	深鉢	口縁～底部		1	住居	No.1	粗砂、細礫	黄褐橙	ふつう	無文土器。口径24.2cm、高さ24.3cm、底径9.5cm。	後期

1号住居

No.	挿図 PL.No.	所属遺構 包含層	器種	形態・素材	製作状況・使用状況	区	名	遺構名	出土位置	石材	長さ	幅	厚さ	重さ (g)	備考
2	第12図 PL.6	1号住居	加工痕ある剥片	幅広剥片	石器端部の刃部は搔器様で、剥離角は厚い。裏面側剥離面は、平坦で節理面気味。全体に風化して摩耗している。	-	1	住居	No.2	黒色頁岩	7.8	6.0	1.3	92.2	
3	第12図 PL.6	1号住居	石製研磨具	河床礫	背面側平坦面が光沢を帯び、線条痕が著しい。側縁の線条痕も明らかであるが、光沢は弱い。	-	1	住居	P12	凝灰質砂岩	7.1	5.2	2.6	112.0	

1号土坑

No.	挿図 PL.No.	器形	残存	区	名	遺構種	取上番号	胎土	色調	焼成	文様の特徴等	備考
1	第13図 PL.6	深鉢	胴部片		1	土坑	覆土	粗砂	暗褐	ふつう	胴部に沈線を2条巡らせて区画し、区画内にLRの縄文を施す。	堀之内2式

3号土坑

No.	挿図 PL.No.	器形	残存	区	名	遺構種	取上番号	胎土	色調	焼成	文様の特徴等	備考
1	第13図 PL.6	深鉢	胴部片		3	土坑	覆土	粗砂、細礫	橙	ふつう	胴部にRLの縄文を施す。	後期

2号住居

No.	挿図 PL.No.	種器 種類	出土位置 残存率	計測値			胎土／焼成／色調	成形・整形の特徴	摘要
1	第17図 PL.6	須恵器 杯	口縁1/3欠	口底 13.7 7.2	高	3.7	細砂粒・粗砂粒・軽石・石英 ／酸化焰／黒褐	ロクロ整形(右回転)底部は回転糸切り無調整。	燻し焼成
2	第17図 PL.6	須恵器 杯	体部一部欠	口底 12.7 5.4	高	4.4	細砂粒・粗砂粒・軽石・石英 ／酸化焰／オリーブ黒	ロクロ整形(右回転)底部は回転糸切りと思われるが剥離しているため不明	燻し焼成
3	第17図 PL.6	須恵器 杯	口縁一部欠	口底 14.7 6.5	高	5.6	細砂粒・粗砂粒・軽石・石英 ／酸化焰／にぶい黄褐	ロクロ整形(右回転)底部は回転糸切り無調整。	外面の一部吸炭
4	第17図 PL.6	須恵器 椀	口縁一部欠	口底 15.3 8.4	高	6.6	細砂粒・粗砂粒・軽石・石英 ／酸化焰／にぶい黄橙	ロクロ整形(回転方向不明)底部切り離し不明	器面の摩滅顕著
5	第17図	須恵器 椀	体部～底部	底	7.7		細砂粒・粗砂粒・軽石・石英 ／酸化焰／にぶい黄褐	ロクロ整形(右回転)底部は回転糸切り後の丁寧な付け高台。	
6	第17図 PL.6	須恵器 皿	口縁1/4欠	口底 14.2 6.9	高	3.6	細砂粒・粗砂粒・角閃石・軽石・ 石英／酸化焰／灰黄褐	ロクロ整形(右回転)底部は回転糸切り無調整。	燻し焼成か
7	第17図 PL.6	須恵器 片口鉢	1/3	口底 15.7 10.7	高	8.5	細砂粒・粗砂粒・軽石・石英 ／酸化焰／にぶい黄褐	ロクロ整形(右回転)体部下端はヘラ削り。	
8	第17図 PL.6	須恵器 羽釜	2/3	口底 17.0 6.9	高	32.0	細砂粒・粗砂粒・軽石・石英 ／酸化焰／にぶい黄橙	ロクロ整形か。鏝の貼り付けは雑で、胴部外面は縦のヘラ削り、内面は撫で。	口縁部外面に輪積み痕
9	第17図 PL.6	須恵器 羽釜	1/4	口底 17.8 8.0	高	33.0	細砂粒・粗砂粒・軽石・石英 ／酸化焰／灰白	ロクロ整形か。鏝の貼り付けは雑で、胴部外面は縦の、下端は横のヘラ削り、内面はロクロによる撫で。	
10	第18図 PL.7	須恵器 羽釜	1/2	口	17.3		細砂粒・粗砂粒・軽石・石英 ／酸化焰／褐灰	ロクロ整形か。口縁部内外面は雑な撫で、胴部外面は縦のヘラ削り、内面は縦の撫で。鏝は雑な作り。	
11	第18図	須恵器 羽釜	口縁～胴部	口	16.6		細砂粒・粗砂粒・軽石・石英 ／酸化焰／にぶい黄褐	ロクロ整形か。鏝の作りはやや雑で、胴部外面は縦のヘラ削り。鏝の貼り付け部内面に指で押さえた痕跡を残す。	
12	第18図 PL.7	須恵器 羽釜	口縁～胴部	口	18.0		細砂粒・粗砂粒・軽石・石英 ／酸化焰／にぶい黄褐	ロクロ整形か。鏝の貼り付けは比較的丁寧で、胴部外面は縦のヘラ削り、内面は縦の雑な撫で。	口縁部内外面に輪積み痕
13	第18図	須恵器 羽釜	口縁～体部	口	18.6		細砂粒・粗砂粒・軽石・石英 ／還元焰／オリーブ灰	ロクロ整形か。鏝の作りは雑で、胴部外面は縦のヘラ削り、内面は撫で。	口縁部外面に輪積み痕
14	第18図 PL.7	須恵器 羽釜	口縁～体部	口	18.7		細砂粒・粗砂粒・軽石・石英 ／酸化焰／灰白	ロクロ整形か。鏝の作りと貼り付けは雑で、胴部外面は縦のヘラ削り、内面は撫で、部分的に押厚の痕跡。	
15	第18図 PL.7	須恵器 羽釜	口縁～胴部	口	16.4		細砂粒・粗砂粒・軽石・石英 ／酸化焰／にぶい黄橙	ロクロ整形か。胴部外面は縦のヘラ削り、内面は撫で。	口縁部内面に輪積み痕
16	第18図 PL.7	須恵器 羽釜	口縁～体部	口	16.0		細砂粒・粗砂粒・角閃石・軽石・ 石英／還元焰／にぶい黄橙	ロクロ整形か。鏝の作りと貼り付けは雑で、貼り付け部内面に指先で押さえを痕跡に残す。胴部外面は縦のヘラ削り。	内面に煤付着
17	第19図	須恵器 羽釜	体部～底部	底	8.0		細砂粒・粗砂粒・軽石・石英 ／酸化焰／にぶい黄褐	ロクロ整形か。胴部外面は縦の、下端は横のヘラ削り、内面は横の雑な撫で。	

出土遺物観察表

18	第19図	須恵器 羽釜	体部～底部	底	9.2			細砂粒・粗砂粒・軽石・石英 ／還元焰／灰白	ロクロ整形か。胴部外面は縦の、下端は斜めのへら削り、底部は撫で。	
19	第19図 PL.7	須恵器 羽釜	体部～底部	底	8.5			細砂粒・粗砂粒・軽石・石英 ／酸化焰／浅黄	ロクロ整形か。胴部外面は縦のへら削り、内面は撫で。	
20	第19図 PL.7	須恵器 羽釜	体部～底部					細砂粒・粗砂粒・軽石・石英 ／還元焰／灰	ロクロ整形か。胴部外面は縦の下端は斜めのへら削り、内面は撫で。	外面に煤付着
21	第19図 PL.7	須恵器 瓶	体部～底部	底	12.8			細砂粒・粗砂粒・軽石／酸化 焰／にぶい黄褐	ロクロ整形か、胴部外面は縦、下端は横の撫で。内面は撫で。	

3号住居

No.	挿図 PL.No.	種 器	類 種	出土位置 残存率	計測値			胎土／焼成／色調	成形・整形の特徴	摘 要
					口 底	高	4.7			
1	第21図 PL.8	須恵器	杯	完形	口 底	11.0 5.0	高	4.7	細砂粒・角閃石・軽石／酸化 焰／明黄褐	ロクロ整形(右回転)底部は回転糸切り無調整。 共作する杯・椀と胎土相違

1号ピット

No.	挿図 PL.No.	種 器	類 種	出土位置 残存率	計測値			胎土／焼成／色調	成形・整形の特徴	摘 要
					口 底	高	4.2			
1	第22図 PL.8	須恵器	杯	完形	口 底	12.4 5.4	高	4.2	細砂粒・粗砂粒・石英／還元	ロクロ整形(右回転)、底部は回転糸切り無調整。 内面に吸炭部分

遺構外の遺物

No.	挿図 PL.No.	器形	残存	区	名	遺構種	取上番号	胎土	色調	焼成	文様の特徴等	備考
1	第23図 PL.8	深鉢	胴部片			遺構外	2住No 26・46、 南東	粗砂、細礫	橙	ふつう	2と同一個体。胴部に細い隆帯を垂下させて区画し、区画内にLの縄文を縦位に疎らに施す。	加曾利E系 (後期初頭)
2	第23図 PL.8	深鉢	胴部片			遺構外	2住No 25、南東	粗砂、細礫	橙	ふつう	1と同一個体。胴部に細い隆帯を垂下させて区画する。	加曾利E系 (後期初頭)

写真図版



1. 遺跡全景(北西から)



2. 調査区全景(北西から)



1. 調査区調査風景(南から)



2. 調査区全景(南から)



3. 東壁基本土層土層断面(西から)



4. 1号住居全景(東から)



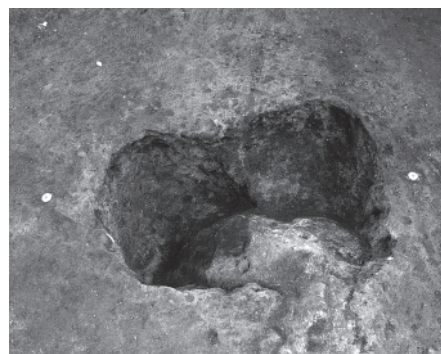
5. 1号住居炉全景(南から)



6. 1号住居炉掘り方土層断面(東から)



7. 1号住居P 2・P 3土層断面(北東から)



8. 1号住居P 2・P 3全景(北から)



9. 1号住居P 1 3土層断面(北から)



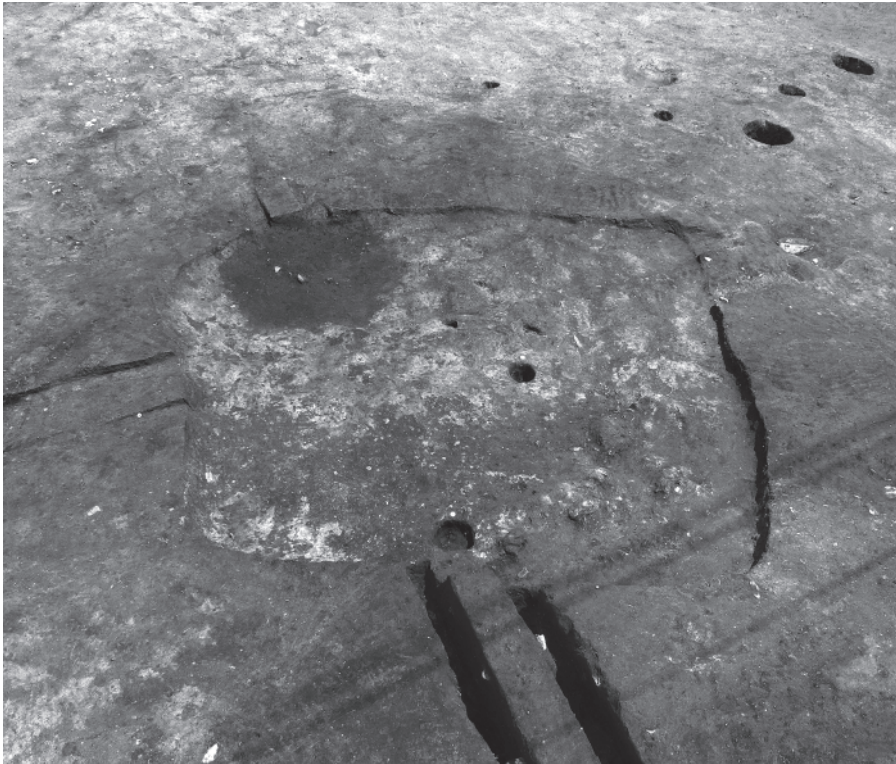
1. 1号住居出土遺物(南から)



2. 1号住居調査風景(北から)



3. 2号住居遺物出土状態(南東から)



4. 2号住居全景(南西から)



5. 2号住居南東部遺物出土状態(南東から)



6. 2号住居掘り方土層断面(東から)



7. 2号住居土層断面(東から)



8. 3号住居掘り方全景(南から)



9. 3号住居全景(西から)

PL.4



1. 3号住居遺物出土状態(東から)



2. 3号住居南西部遺物出土状態(北東から)



3. 3号住居炭化物出土状態(南から)



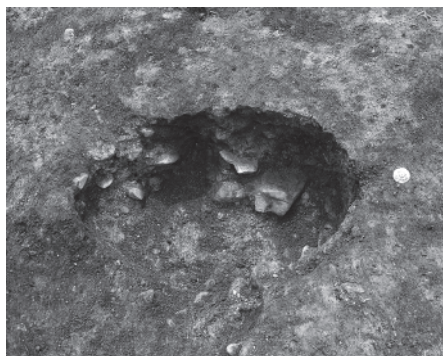
4. 3号住居竈遺物出土状態(南から)



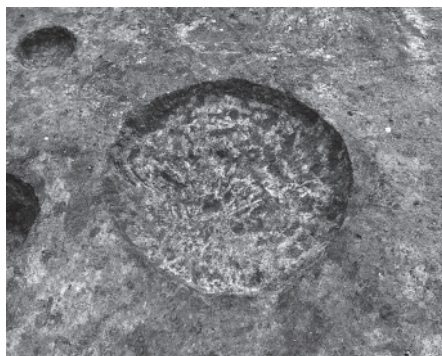
5. 3号住居竈全景(東から)



6. 3号住居竈掘り方全景(南から)



7. 3号住居P 4全景(北から)



8. 1号土坑全景(東から)



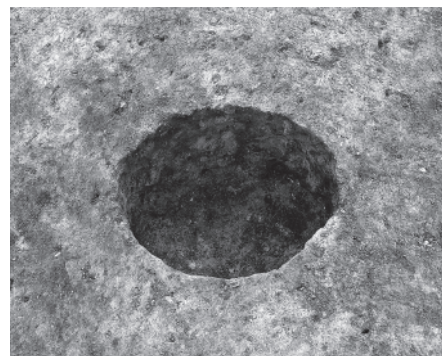
9. 2号土坑全景(南から)



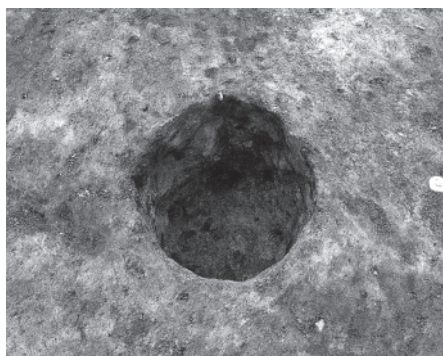
10. 3号土坑全景(東から)



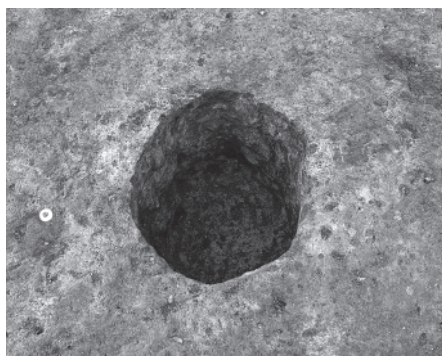
11. 1号ピット全景(東から)



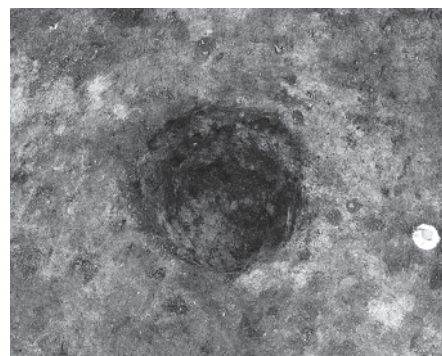
12. 2号ピット全景(東から)



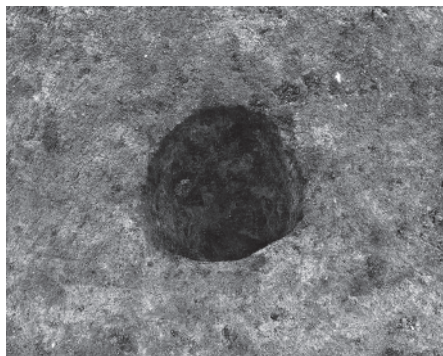
13. 3号ピット全景(東から)



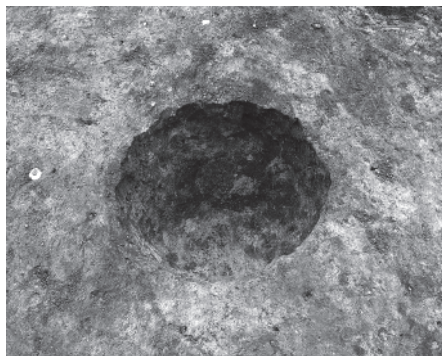
14. 4号ピット全景(南東から)



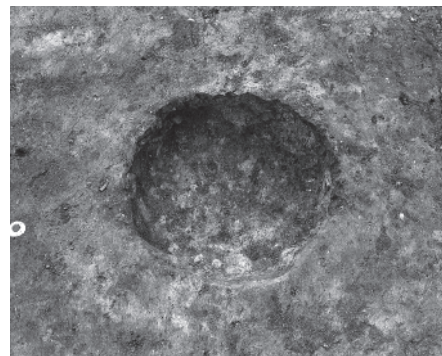
15. 5号ピット全景(東から)



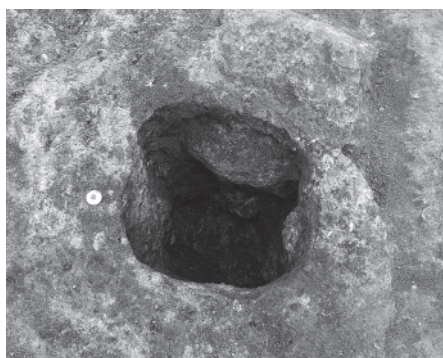
1. 6号ピット全景(東から)



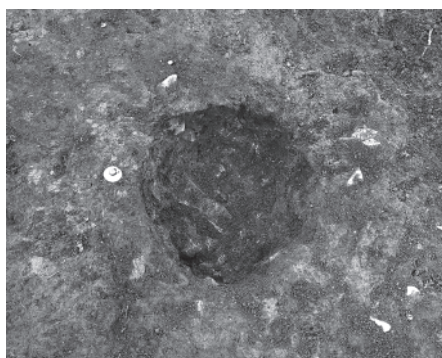
2. 7号ピット全景(東から)



3. 8号ピット全景(東から)



4. 9号ピット全景(南西から)



5. 10号ピット全景(南東から)



6. 1号風倒木全景(東から)



7. 1号トレンチ土層断面(東から)



8. 1号トレンチ全景(東から)



9. 2号トレンチ土層断面(西から)



10. 2号トレンチ全景(西から)



11. 東壁基本土層土層断面(西から)



12. 調査区全景(北から)



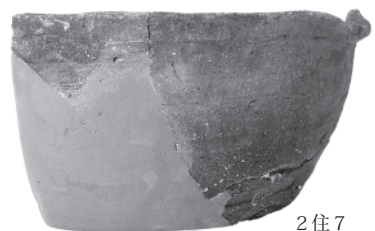
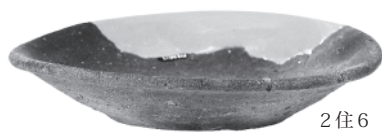
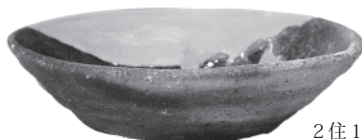
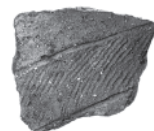
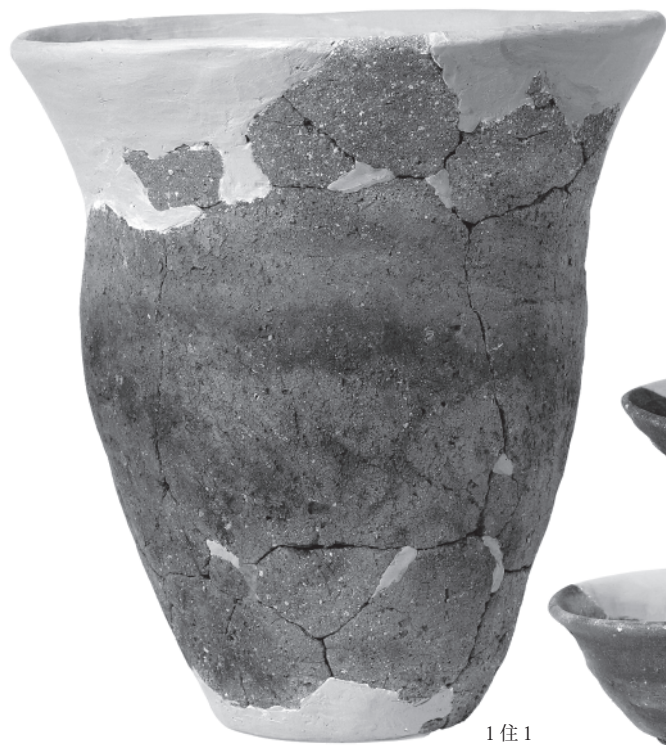
13. 表土掘削(北から)



14. 調査区埋戻し後(南西から)



15. 2号住居調査風景(北東から)





2 住10



2 住12



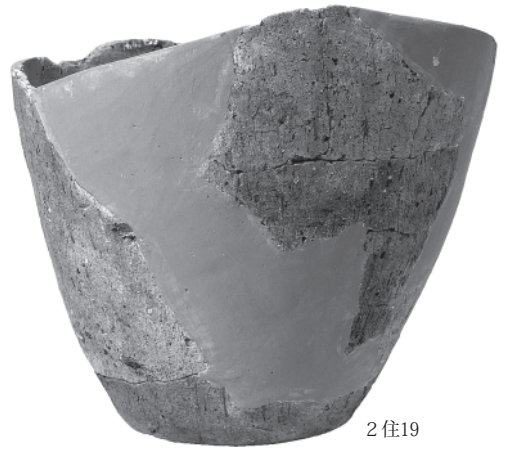
2 住14



2 住15



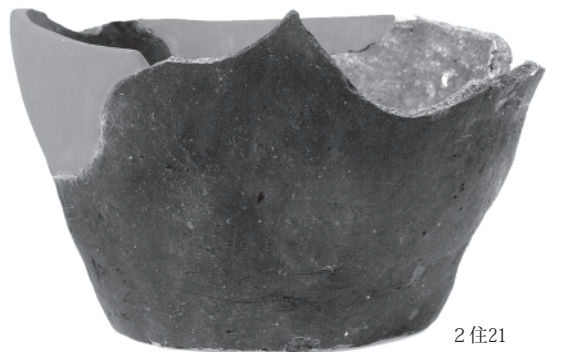
2 住16



2 住19



2 住20



2 住21

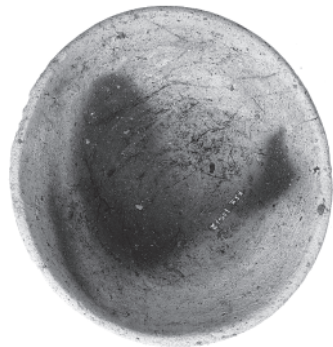
PL.8



3住1



1ピット1



遺構外1



遺構外2

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書 第553集

深 沢 Ⅱ 遺 跡

平成24年度国道291号社会資本総合整備(地域自主戦略)(公安)に伴う
埋 蔵 文 化 財 発 掘 調 査 報 告 書

平成25年(2013)1月16日 印刷

平成25年(2013)1月23日 発行

編集・発行／公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

〒377-8555 群馬県渋川市北橋町下箱田784番地2

電話(0279) 52-2511 (代表)

ホームページアドレス <http://www.gunmaibun.org/>

印刷／川島美術印刷株式会社
